昭和55年9月15日発行（毎月1回15日発行 通巻131号）

バドミントン 9

The Badminton World No.131 1980





carlton
That's the name of the game
ニュー・フェザー・シャトルコック
carlton SUPER

衝撃のシャトル!
今,カールトンから。

常に世界のバドミントンをリードする英国カールトン社が,またもや画期的な発明をやり遂げました。ナイロン・シャトルコック一筋に半世紀,世界のナイロン・シャトル市場で90%以上のシェアを持つカールトンならではの新製品です。研究・開発に5年以上の歳月を費やし,数億円にのぼる開発費を投入して完成されたこの新製品は,従来の水鳥球とほぼ同じ型体と性能を有し,しかも耐久性は3倍～5倍という画期的な製品です。世界的に水鳥球の供給が,問題とされている今日,私達はこの新製品に絶大なる自信を持ち,〝ナイロン・シャトルコック〟と言わずあえて〝ニュー・フェザー・シャトルコック〟と呼びたいと思います。カールトンは常に一歩先を見つめ明日のバドミントンを考えます。ご期待ください。

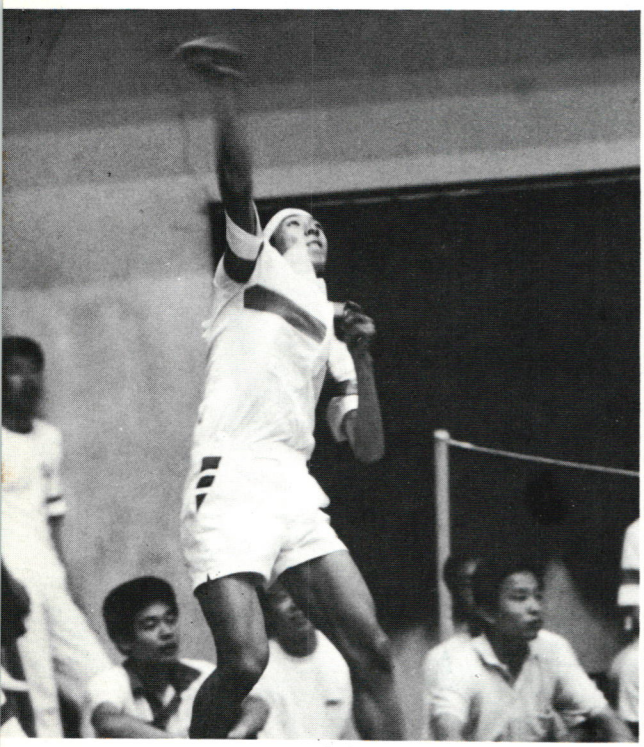


1ダース¥6,000(1個¥500)

10月下旬発売

METRO 総輸入元 メトロレジャー株式会社 〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661(代)

真夏の祭典★インターハイから　善通寺市において



山本（比叡山）



井上（熊本商大付）

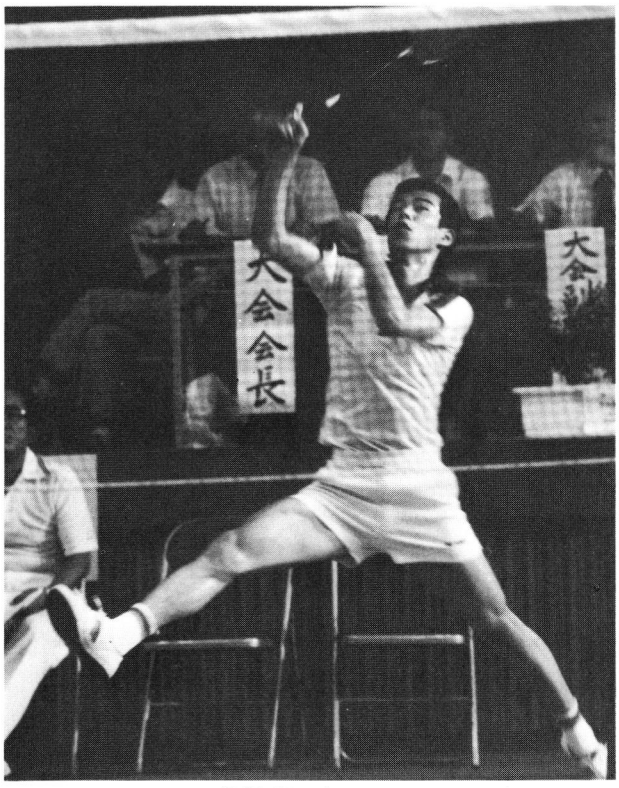
陣内（熊本中央女）



高峯(和)（熊本中央女）



から　善通寺市において



松野（日川）

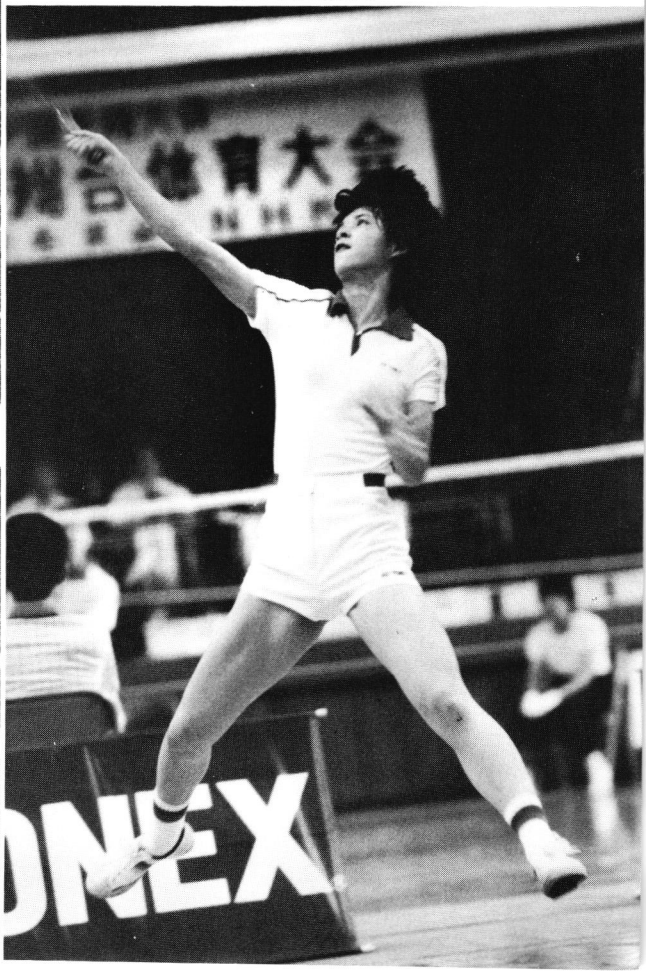


大島（今市）
野上（新潟青陵）

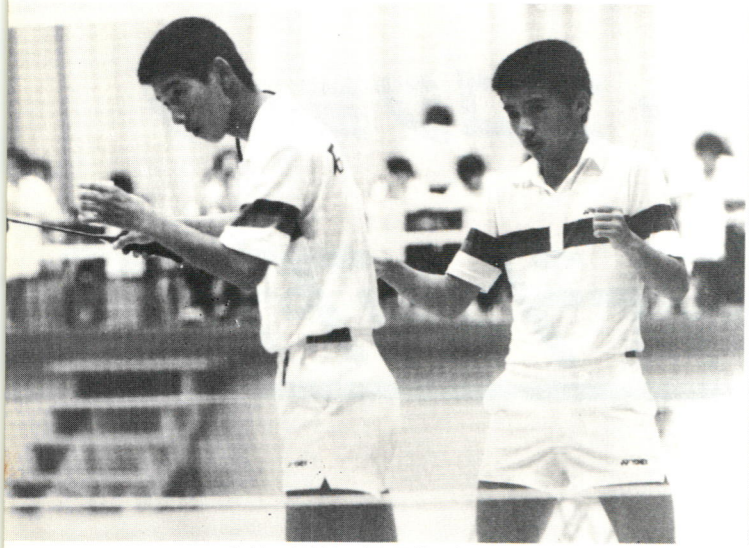


大迫・高附組（鹿児島純心女）
坂田・白川組（福井）





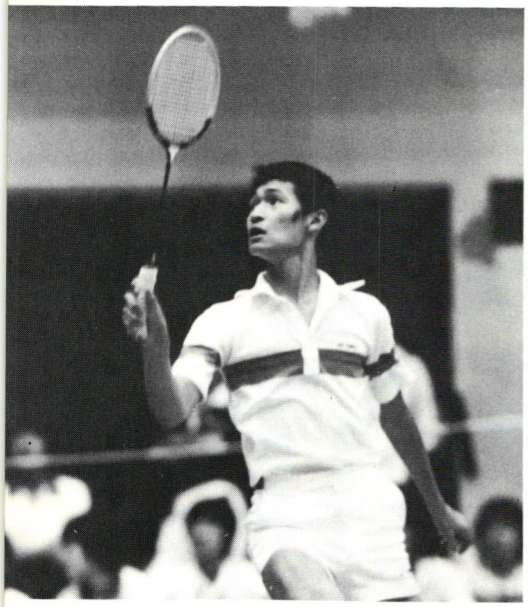
真夏の祭典★インターハイ



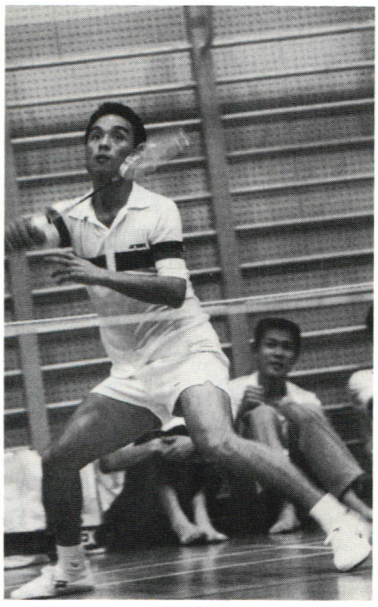
上村・飯村組（石岡第一）



山本・馬杉組（比叡山）



豊田（日大高）

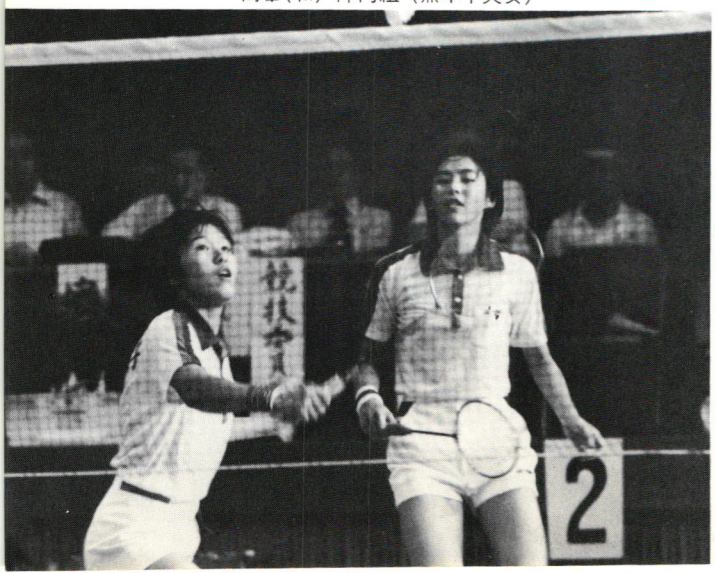


山道（高松商）



松浦（草津）

高峯(和)・陣内組（熊本中央女）



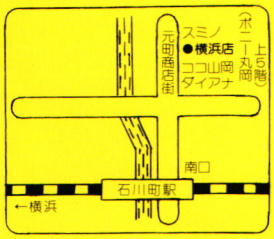
大島・大堀組（今市）



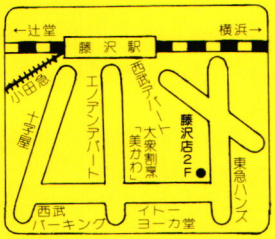
栄光への
アドバイザリー・プロショップ

ラケットショップ元町

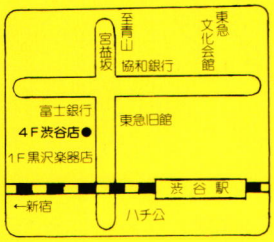




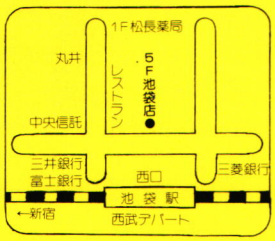
●横浜店
☎5F 045-662-9220 テニス・フロア
☎4F 045-662-7133 バドミントン・フロア



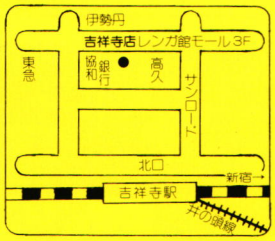
●藤沢店
☎0466-26-2552 テニス・バドミントン



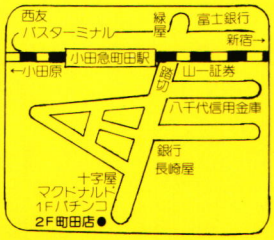
●渋谷店
☎03-3400-7390 バドミントン・プロショップ



●池袋店
☎03-3981-0215 バドミントン・プロショップ



●吉祥寺店
☎0422-21-7890 バドミントン・プロショップ



●町田店
☎042-728-6050 バドミントン・プロショップ

バドミントン 9月

❶
グラフ
第31回全国高校選手権大会から

❻
比叡山 スリリングに3年ぶり
単は井上、複は馬杉・山本組

❽
熊本中央女子 日の出の勢いで初制覇
高峯(和)3冠王の名誉

❿
第10回全国中学生大会
調布四中，信愛女学院中が栄冠

⓰
“羽根サービス”が禁止になる!?
IBFルール改正へ動く

⓱
保存版
インターハイ記録

㉖
われらのクラブ
玄海灘にはばたくファミリー バード

㉛
第13回日韓高校交歓競技会
韓国チーム，パワーとスピードで圧勝

㉞
第19回全日本教職員選手権大会
教鞭をラケットに代えて先生方の大熱戦

㊳
読者と編集者
ペンフレンド募集ほか

㊵
海外トピックス
イバナの悩みほか

㊷
バドミントンの用語ABC
Hの項

㊹
19世紀のバドミントン
編集室から

㊺
グラフ
第31回全国高校選手権大会から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝昭和55年度インターハイ女子ダブルスで優勝の高峯・陣内組　　撮影＝赤星三樹

校選手権大会＝インターハイ〉★8・1～6 香川県善通寺市

3年ぶり2度目の優勝

スは馬杉・山本組のガッツに軍配



比叡山は3年ぶり2度目の優勝

男子団体決勝は、比叡山と今市が激突、最近にないスリリングな名勝負となった。

比叡山は〝春の選抜〟の雪辱を期して、山本のシングルスにすべてを託す作戦。対する今市も〝春の三冠王〟主砲・大島で雌雄を決するオーダー。両チームともシングルスが明暗を分ける大事な試合となった。

春の対戦では、大島に軍配が上がっており、大島やや有利かと思われた。

しかし、今大会の山本の気力の充実は素晴らしいものがあった。第1、第2ゲームとも前半は競り合う形となったが、勝負どころの後半になると、強気の攻撃に徹した山本の気力がものをいって、大島のテクニックを封じ込んでしまった。

まさに、気力がテクニックを押し切った一番。

ダブルスでは有利な比叡山を倒すためには、どうしても欲しい大島の1勝だった。

比叡山は、山本の勝利で勢いに乗り、第1ダブルスの失点をとり返すかのように一方的に第2ダブルスを圧勝、見事に3年ぶり2度目の優勝を飾った。

そして、その比叡山に激しく肉薄したのが九州学院。

小気味のよいコンビ、伊東・福田組、本石・堺組が大活躍して比叡山を土俵際まで追いつめた。特に第2ダブルスの本石・堺組は、押し気味に試合を進めていただけに、いっそうあと一歩の感が深かった。

毎年上位を賑わす正強、金沢市工は、今年もキビキビした好選手を揃え、伝統のあるところをみせた。

男子シングルスは、戦前から優勝候補に挙げられていた大島、山本、井上の各選手が、順当に圧倒的な強さを発揮し、久し振りに山梨が生んだ好選手・松野とともにベスト4へ進出、覇権を競う盛り上がりをみせた。

山本は、団体戦で大島を破った実績から、この日も第1ゲーム競り合いながら余裕を持った動きで先取し、第2ゲームは気落ちした大島に大差をつけて決勝へ勝ち進んだ。

シングルス一本に全力を集中する井上は、春はコンディションの調整に失敗したが、今大会は攻撃のスピードが一段と増し体調充分の様子、2年生・松野にくい下がられながら貫禄を示してこれまた決勝へ駒を進めた。

★昭和55年度全国高等学校総合体育大会〈第31回全国高等学

比叡山スリリングに

個人戦シングルスは井上，ダブル

決勝は、井上が速攻、それを守ってから反撃する山本という試合展開になった。

決め球にややミスの目立つ井上は、序盤戦こそ苦戦を強いられたが、徐々にけれん味のない速攻が決まり出し挽回、13オールのセッティングにもつれ込んだ。そして井上は、なおも速攻に次ぐ速攻の連続で山本の反撃を断ち、第1ゲームを先取。

井上は、この競り合った第1ゲームに勝ったのが余裕を生んだのか、第2ゲームはクロスネット、カットショットを織り混ぜるなど多彩なテクニックを披露、懸命に粘る山本を振り切り、念願の栄冠を手中に収めた。

井上の勝因は、何といっても速攻に徹したこと。

チャンスとみればスマッシュ、そしてネットへ出てアタックと相手に息をつかせぬ試合ぶり。そうすることによって弱点といわれた精神面、また関節の固さをカバーしたといえよう。

やや期待外れだったのは春の三冠王・大島。

あり余る素質に埋もれた格好となって、終始受け身のプレー。否が応でも白熱するインターハイを勝ち抜くには、素質だけではやはり至難の業と思われる。

長身、そして柔らかいリスト、大型選手としての条件を充分過ぎるほど持っているだけに、あとはプレーに〝感情の移入〟ができるよう望まれる。

先輩・西山（現在中大3年）の後を追って三冠へ王手をかけた山本だったが、さすがに終盤は疲労が蓄積したようだった。しかし、ガッツあるプレーは立派の一語。

2年生でベスト4の松野、ベスト8へ入った豊田は、癖のないきれいなフォーム、攻守ともによくまとまって大健闘、早くも来年の活躍が約束されたような試合ぶりだった。

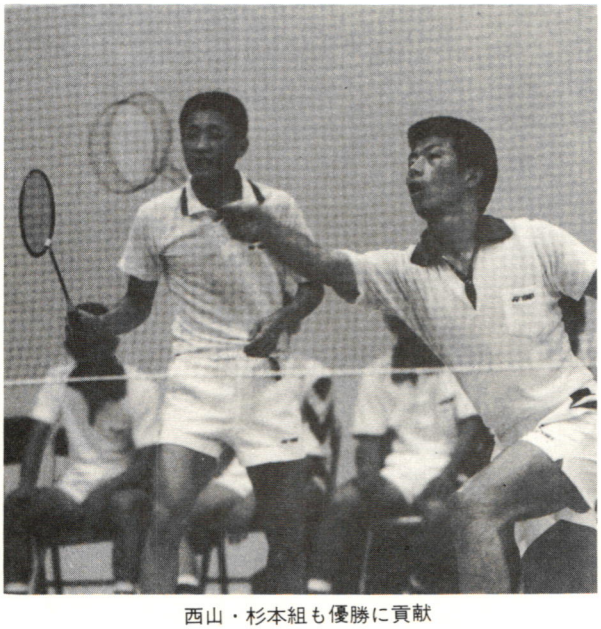
男子ダブルスは、完全に山本・馬杉組と大島・大堀組の一騎打ち。ともに決勝までをストレートで勝ち上がった。

しかし、団体戦を勝って勢いづく比叡山ペアは手がつけられないほどの調子を出し、馬杉がよく継ぎ、山本が打つパターンが決って快勝した。

実力的にはほぼ互角と思われたが、精神的なものの影響が大きく作用した試合だった。



「ガッツで行くゾー」山本のこの表情



西山・杉本組も優勝に貢献

校選手権大会＝インターハイ〉★8・1～6　香川県善通寺市

勢いで初制覇へ突っ走る

陣内とのペアで3冠王の名誉



工藤監督の一念が通じて初優勝の熊本中央女

昨年まで5連勝、ここ10年間に8回の優勝に輝く四条畷が、遂に王座を明け渡す日がやってきた。

準々決勝、熊本中央女の攻撃的なバドミントンに対し、守りを主体にする四条畷だったが、日の出の勢いの熊本中央女を防ぐのは困難を極めた。

ダブルスに完敗を喫し、頼みの綱はシングルスの尾崎。しかしその尾崎も、第1ゲームを接戦のすえ落として落胆の色があり。

試合終了間際、ジャッジに不満の片岡監督が激しく抗議を申し入れたが、それも空しく却下され、再びムードを盛り上げることができなかった。

〝栄枯盛衰世の習い〟とはえ勝者と敗者の明暗をあらためて見せつけたようだった。

四条畷を撃破した熊本中央女は、ますます勢いを強め、当たるところ敵なし。

高峯（和）、陣内の二枚看板に加えて、井村が急速に成長、信頼できるダブルスプレーヤーの役を十分に果たしたのが大きかった。

それでも、なかなか楽には勝たしてくれないインターハイ。

決勝では、楽勝と思われた第2ダブルスが、第2ゲーム大苦戦、高（和）・井村組が勝ちを意識してカチカチになってしまった。しかし、さすがに百戦錬磨、工藤監督の叱咤で立ち直りセッティングをものにして熊本に悲願の初優勝をもたらした。

またしても、決勝で涙を飲んだ新潟青陵、長身のエース野上をポイントゲッターにして、2年生のサウスポー・山内が健闘、ダブルスに伝統的な巧みさを見せた。悲運の名将・佐藤（秀）監督は「来年がある」と感情を殺したが、その情熱が燃え続ける限りチャンスはまだまだ訪れるだろう。

久し振りに好チームを育てた小山城南の遠井監督も依然として健在。千葉学園を率いる佐藤（正）監督も眼光は鋭く、女子のレベルの高さの原因をうかがわせた。

女子シングルスは、好選手が目白押し、見応えのある試合が続いた。

その中でも、2年生の活躍は目を見張るものがあり、陣内、山内佳子、山内美子、平間、小池、田向、屋代などが力強いプレーで上位に進出、活気ある雰囲気となった。

★昭和55年度全国高等学校総合体育大会〈第31回全国高等学

熊本中央女子 日の出の

高峯(和)シングルスを制し,



しかし、その若い力を上回る安定感があったのが高峯(和)。丁寧なプレー、配球はさすがに3年生を思わせ、特に逆クロスカットは絶品のでき栄えをみせ、何度となくピンチを脱出するのに役立ち、相手の焦りを誘う効果もあった。

自信に裏づけされた安定感が、決勝で先にゲームポイントを奪われながら逆転した、高峯(和)の大きな財産であった。

ベスト4へ進出した、陣内、山内(佳)、野上は、ともに長身からの鋭角的な攻撃を主体に、それぞれ将来性豊かな素質を披露してくれた。

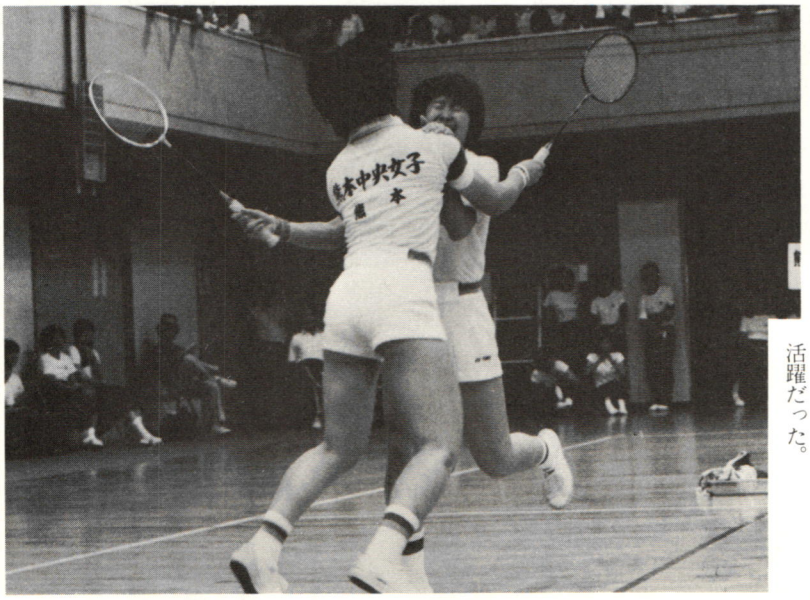
異色だったのが、高岡女の今川。キビキビした動き、スイングのスピードは男子を思わせるものがあり、小柄だが山椒は小粒でもの感があった。

女子ダブルスは、高峯(和)・陣内組の圧勝。

攻撃といい、レシーブといい相手に試合をさせないほどの力の差をみせ、高峯(和)は自ら三冠に輝き有終の美を飾った。

まったくの無名から、一躍脚光を浴びたのが川口女の川口・佐野組。

大会随一と思える川口のスマッシュが、佐野の好リードによってうまく引き出され、強敵をつぎつぎとなぎ倒してのベスト4進出は、周囲をあ然とさせる活躍だった。



優勝の一瞬、抱きあって喜ぶ高峯(和)・井村組

★第10回全国中学生バドミントン大会★8・24〜26＝熊本市

調布四中（男子）激戦で、信愛女学院中（女子）は圧勝飾る

個人戦初代チャンピオンに見市と上村

第10回全国中学生バドミントン大会は、8月24日から3日間、熊本市体育館で開催されました。

同大会はこれまで各県選抜チームの団体戦として競技してきましたが、各スポーツ団体が社会体育から学校体育に切り替えられ、バドミントンも今年から全国中体連の主催となり、学校単位の団体戦に個人戦が加わりました。

団体戦は、全国各ブロックの代表、男女各16校が出場し、男子は激戦の末、調布四中（東京）、女子は、圧倒的な強さで、地元熊本の信愛女学院中が優勝しました。

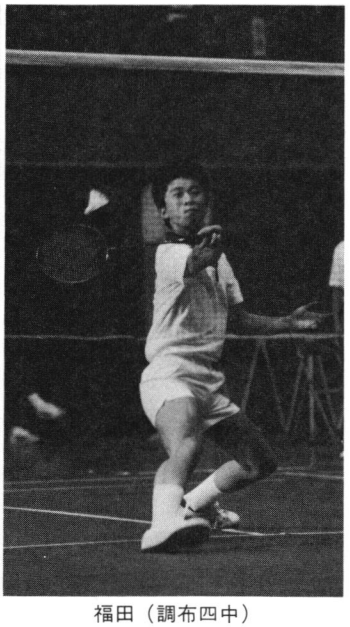
また今大会から始まった男女個人戦でも、熊本は「バドミントン王国」の名に恥じない好成績をおさめました。

女子単は、準決勝で、宿敵鴻原（大阪・四條畷）を破った上村（熊本・信愛女学院）が優勝。同複でも、青木・平井（熊本・信愛女学院）が、まったく他をよせつけず完勝をとげました。

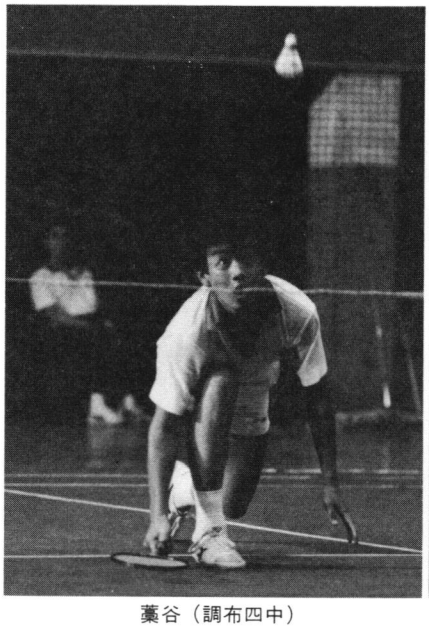
女子が、大人顔負けのテクニックや、落着いたプレーを見せてくれたのに対し、男子は、まだまだ攻撃だけにたよる、淡白なプレーが目立ちましたが、さすがに決勝戦では、見ごたえのあるゲームを展開しました。

男子単初代チャンピオンに輝いたのは、見市（大阪・四條畷）。準決勝、決勝と厳しい試合の連続でしたが、持ち味のスピードと切れよいスマッシュで、川本（熊本・八代三中）をくだし、優勝。

同複は、熊本県同士の戦いとなりましたが、三次・野中組（玉陵）が、福田・松川組（桜山）を破り優勝しました。



福田（調布四中）



藁谷（調布四中）

◇男子団体戦

▼1回戦

裏磐梯（福島） 2（複0—1、単2—0） 1 春日（奈良）

伊東南（静岡） 2（複1—0、単1—1） 1 八幡木（埼玉）

倉敷西（岡山） 2（複0—1、単2—0） 1 岡垣（福岡）

調布四（東京） 3（複1—0、単2—0） 0 中田（宮城）

成和（福井） 3（複1—0、単2—0） 0 金沢（秋田）

阿見（茨城） 2（複1—0、単1—1） 1 八代八（熊本）

勝賀（香川） 2（複0—1、単2—0） 1 皇子山（滋賀）

栄進（埼玉） 3（複1—0、単2—0） 0 江陵（北海道）

▼2回戦

伊東南 2（複1—0、単1—1） 1 裏磐梯

調布四 2（複1—0、単1—0） 0 倉敷西

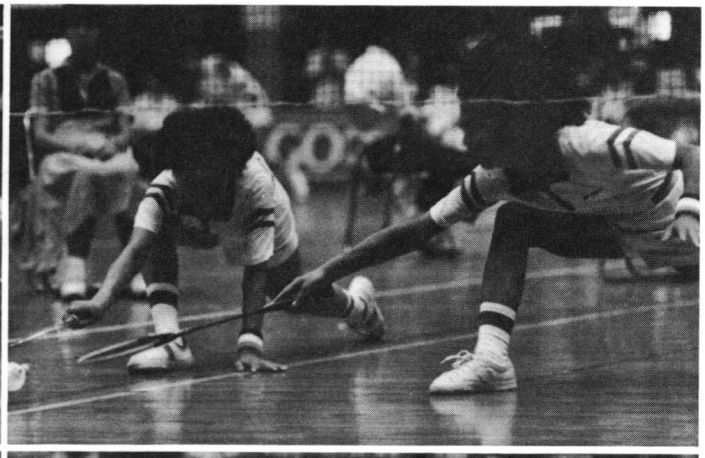
▼準決勝
栄進 2（単1-0 複1-1）0 勝賀
成和 2（単2-0 複0-1）1 阿見
○調布四 2（単2-0 複0-1）1 伊東南
瀬木 0 / 正岡 0（12 13 / 15 15）2 杉山 / 加藤
福田 2（15 15 / 6 7）0 大胡
藁谷 2（18 15 / 16 3）0 野村
○栄進 2（単1-1 複1-0）1 成和
長内 2 / 猪俣 2（15 15 / 8 11）0 近藤 / 坂田
杉浦 0（4 14 / 15 17）2 森下
藤咲 2（15 15 11 / 1 12 15）1 加藤

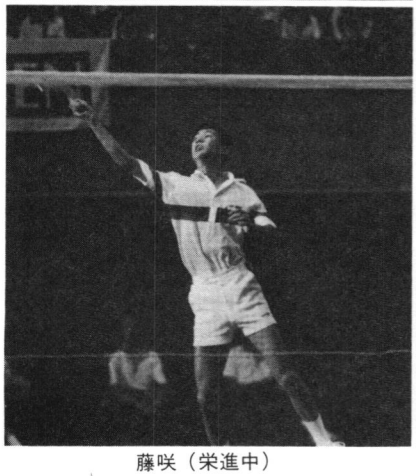
▼決勝
調布四 2（単2-0 複0-1）1 栄進
瀬木 0 / 正岡 0（8 8 / 15 15）2 長内 / 猪俣
福田 2（18 10 15 / 15 15 4）1 松浦
藁谷 2（15 15 / 11 8）0 藤咲

鴻原（四條畷学園中）



平井・田中（香川一中）





藤咲（栄進中）



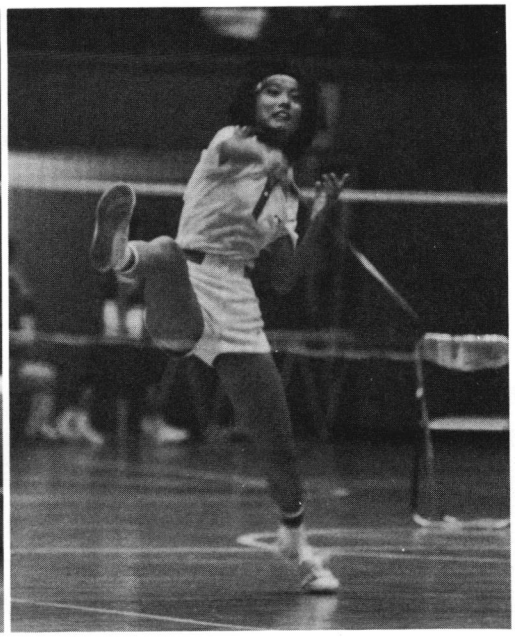
三次・野中（玉陵中）

◇女子団体戦

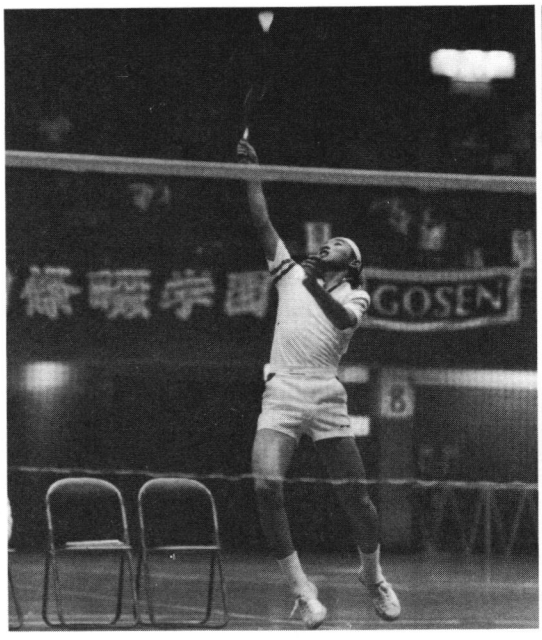
▼1回戦
信愛 3（単2-0 複1-0）0 真岡（栃木）
栗津（滋賀） 2（単1-1 複1-0）1 ウルスラ（宮城）
札苗（北海道） 3（単2-0 複1-0）0 日新（山形）
川口芝 2（単2-0 複0-1）1 成和（福井）
今市（栃木） 2（単1-1 複1-0）1 大鰐（青森）
香川一 2（単1-1 複1-0）1 菊池北（熊本）
栄進 3（単2-0 複1-0）0 伊東南（静岡）
四條畷 2（単1-1 複1-0）1 白石（岡山）

▼2回戦
信愛 2（単1-0 複1-0）0 栗津
川口芝 2（単1-1 複1-0）1 札苗
香川一 2（単2-0 複0-1）1 今市
四條畷 2（単1-0 複1-0）0 栄進

▼準決勝
○信愛 2（単1-0 複1-0）0 川口芝
山田 2 / 平井 2（17 15 6 / 14 6）0 小網 / 佐藤



中川（一宮中）



川本（八代三中）

青木 2 (11—6 / 11—0) 0 湯木

○四條畷 2 (単1—0 / 複1—0) 0 香川一

原田 末房 2 (18—17 / 15—5) 0 平井 田中

鴻原 2 (12—11 / 3—11 / 12—10) 1 中村

▼決勝

信愛 2 (単1—0 / 複1—0) 0 四條畷

山田 平井 2 (15—4 / 15—8) 0 荒井 末房

上村 2 (11—7 / 11—12 / 11—8) 1 鴻原

今年から、学校単位での団体戦となったため、従来の勢力分布にどういった影響をもたらすのか大いに興味が注がれた。

特に女子は、昨年まで3連勝、圧倒的な強さを誇っている熊本が、果たして今まで通りの〝絶対的〟威圧感をどこまで発揮することができるか、地元開催だけに一層の関心が持たれた。

しかし、いざフタを開けてみると、地元の不安はただの杞憂だったことを証明、単複ともにエースを擁する熊本・信愛女の快進撃が見られた。

1回戦の真岡中（栃木）をストレートでくだした信愛女は、一戦ごとにダブルスを組み替える余裕を示し、シングルスでも上村が重責を果たして万全の体制で勝ち進んでいった。

しかし、準決勝までは破竹の勢いだった熊本も、対四條畷学園（大阪）の決勝は、イヤというほど産みの苦しみを味わうことになった。

ダブルスは、難なく信愛女の山田・平井組が、四條畷の荒井末房組をくだしたものの、エース同士の対戦となった上村対鴻原は大接戦。

第1ゲームは、上村が辛くも先取したが、第2ゲームは追いつ追われつのシーソーゲームとなった。

鴻原は、大柄な体軀からもプレー振りからも〝植野恵美子二世〟の雰囲気を漂わせる、将来性豊かなプレーヤー。

力強いストロークでゲームポイントを握り、セッティングに持ち込まれはしたがそのまま逃げ切って、1対1のタイとし甲乙つけ難い内容となった。

しかし、競り合いを抜け出したのはやはり上村。

バドミントンの完成度、精神的な落ち着きでは一枚上の上村は、ミスが連続する欠点の鴻原の僅かな隙を突いて〝王国〟の伝統を守る貴重な一勝を挙げた。

会場は、地元信愛の応援団と、はるばる大阪から駆けつけた四條畷応援団の華々しい応援合戦が繰り広げられ、激戦を反映した賑やかなスタンド風景が見られた。

すべて完勝で危なげない試合運びだった信愛ダブルスの、唯一の苦戦が、川口芝（埼玉）。

「県内でも、やっと勝って出場権を得た」（木村監督）ということだったが、なかなかどうしてのハッスルプレー。

全員、きゃしゃで小柄な体つきにもかかわらず、よく走りよく拾って強豪・信愛ペアに立ち向ったあたり、波に乗り切った感があった。

ベスト4の一角にくい込んだ香川一（香川）も、元気の良さでは大会随一、実力的にもかなりのものがあり、将来が楽しみな存在だった。

戦前から男子は混戦必至、まったく予想がつかないといわれて競技がスタート。

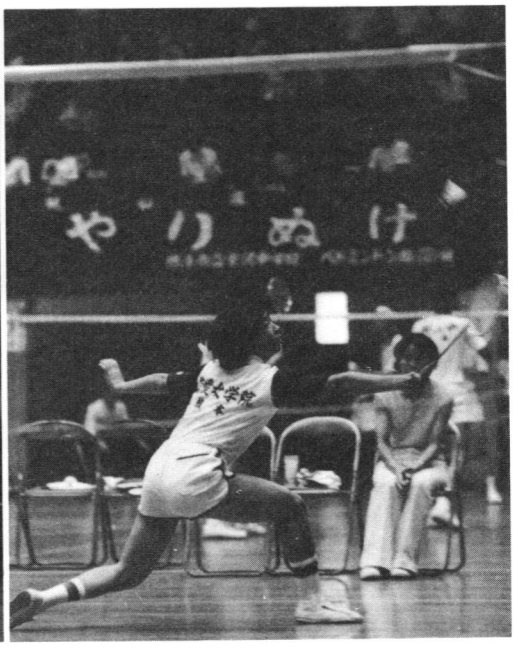
単独チームではなかなかメンバーが揃わないのか、どのチームも一長一短、ゲームが始まると優勝の行方はますます混沌となるばかりだった。

極めて番狂わせの少ない競技といわれているバドミントンだが、男子団体戦15試合のうち、なんとストレートで決まったのがたったの5試合というのを見ても、いかに今大会の実力が伯仲していたかが分る。

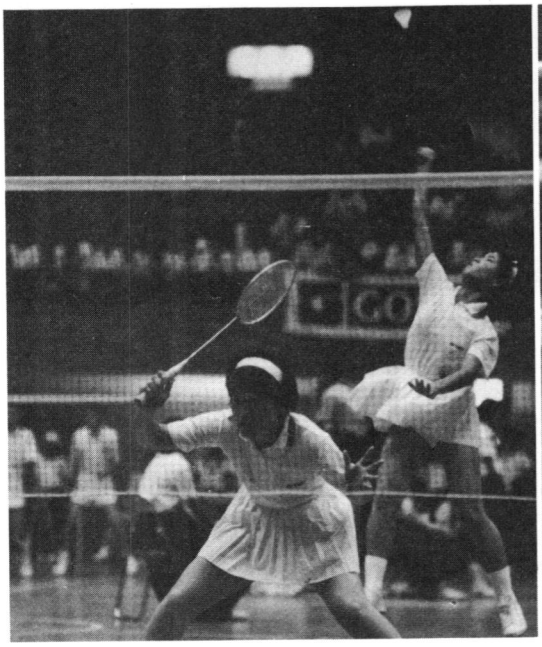
その中から辛くも抜け出して栄冠を勝ち取った調布四中（東京）は、シングルス2つに重点を置く作戦が成功、準決勝、決勝ではともにダブルスを先取されながらの逆転劇であった。

シングルスに全勝した福田、藁谷（＝ワラガイ）両君は、都会っ子らしい冷静な試合運びを見せ、その落ち着きが勝利を呼び込んだといえよう。

準優勝に終った栄進中（埼玉）だが、単複を通じチームとしてのまとまりは調布四中を上回るものがあっただけに残念でならない、来年に期待したいところだ。



上村（信愛女学院中）


中川・山川（白石中）

個人戦も信愛勢強し

◇男子シングルス

▼1回戦

藤　咲 2—0 藤　枝（埼・栄進）（熊・腹巣）
見　市 2—0 横　山（大・四條畷）（青・大鰐）
宮　西 2—1 本　多（香・勝賀）（福島・裏磐梯）
宮　田 2—0 吉　田（山梨・勝沼）（新・吉田）
大　島 2—0 沖（栃・今市）（山口・須々方）
福　田 2—0 山　内（大・四條畷）（茨・石岡）
川　本 2—1 大　胡（熊・八代三）（静・伊東南）
湊　2—1 高　田（秋・金沢）（北・帯広一）

▼2回戦

見　市 2（15—6, 15—5）0 宮
川　本 2（15—11, 15—3）0 大　島
藤　咲 2（15—1, 15—6）0 宮　西
福　田 2（15—13, 15—7, 8—15）1 湊

▼準決勝

見　市 2（15—12, 15—6）0 藤　咲
川　本 2（17—14, 15—6, 10—15）1 福　田

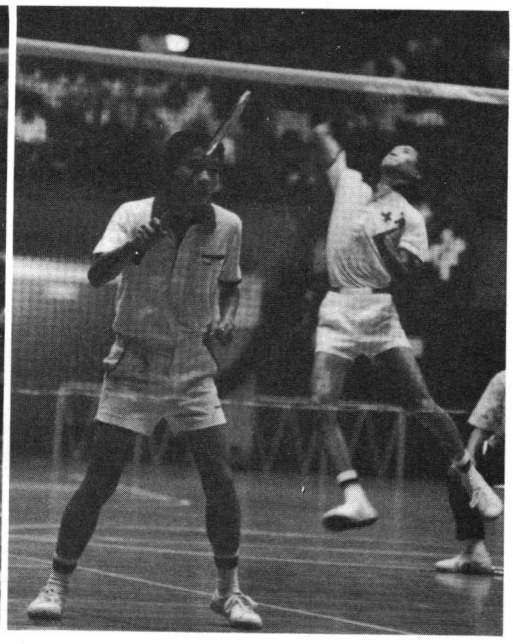
▼決勝

見　市 2（15—9, 3—15, 15—5）1 川　本

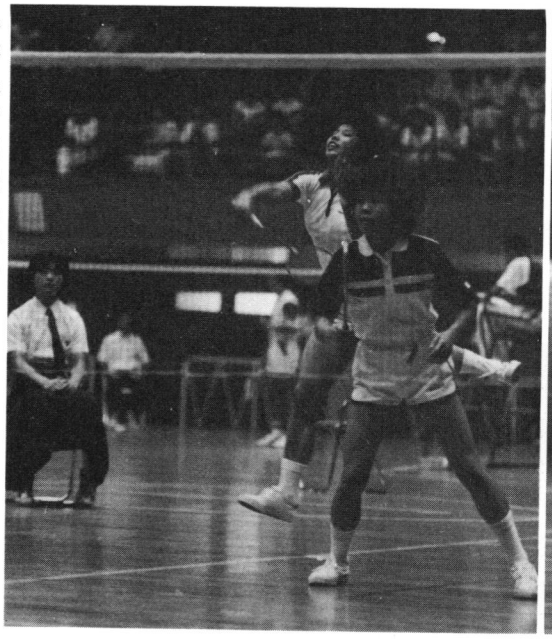
◇男子ダブルス

▼1回戦

福田・松川 2—0 杉山・加藤（熊・桜山）（静・伊東南）
小松・石川 2—0 菊池・佐藤（栃・今市）（福島・裏磐梯）
山内・中村 2—1 中浦・原田（茨・阿見）（香・勝賀）
藤田・小林 2—0 一戸・後藤（滋・堅田）（青・浪岡）
三次・野中 2—0 石上・加嶋（熊・玉陵）（秋・金沢）
森下・加藤 2—0 平山・大塩（福井・成和）（茨・阿見）
川井・小野満 2—0 高橋・松原（奈・春日）（山口・須々方）
小池・鈴木 2—0 山田・岡田（神・今井）（北・江陵）



福田・松川（桜山中）



青木・平井（信愛女学院中）

▼2回戦

三次野中 2 — 0 森下加藤
15 15 — 15 15
— 5 — 7

福田松川 2 — 0 小松石川
15 15 — 15 15
— 2 — 5

山内中村 2 — 1 藤田小林
15 14 15 — 15 15 8
— 8 — 18 — 8 — 18

川井小野満 2 — 0 小池鈴木
15 15 — 15 15
— 11 — 10

▼準決勝

福田松川 2 — 0 山内中村
15 15 — 15 15
— 5 — 11

三次野中 2 — 0 川井小野満
15 15 — 15 15
— 8 — 12

▼決勝

三次野中 2 — 0 福田松川
18 15 — 15 12
— 14 — 12

◇女子シングルス

▼1回戦

中川（香・一宮） 2 — 0 上村（熊・東陽）

小貫（栃・小山二） 2 — 0 鈴木（静・伊東南）

上村（熊・信愛） 2 — 0 内馬場（宮城・ウルスラ）

根本（栃・今市） 2 — 1 小野（山形・鶴岡三）

原田（大・四條畷） 2 — 1 佐藤（新・関屋）

鴻原（大・四條畷） 2 — 0 若井（埼・栄進）

松岡（青・大鰐） 2 — 1 天野（岡・白石）

野津山（東・武蔵野四） 2 — 0 北本（北・長沼）

▼2回戦

中川 2 — 0 根本
11 11 — 5 5

鴻原 2 — 0 松岡
11 11 — 3 2

上村 2 — 0 野津山
11 11 — 1 2

原田 2 — 1 小貫
11 8 11 — 8 11 6

▼準決勝

上村 2 — 0 鴻原
11 11 — 3 8

中川 2 — 0 原田
11 12 — 5 10

▼決勝

上村 2 — 0 中川
11 11 — 7 4

◇女子ダブルス

▼1回戦

青木・平井 2 — 0 武田・木口（熊・信愛）

上山・前多 2 — 1 土居・船越（石・高松）

須藤・細井 2 — 0 梅津・山中（栃・今市）

小泉・川端 2 — 0 小野・田中（兵・園田）

中川・山川 2 — 0 飯泉・水柿（岡・白石）

平井・田中 2 — 0 福本・遠山（香・香川一）

荒井・末房 2 — 0 高橋・守谷（大・四條畷）

明石・後藤 2 — 1 幸山・油川（東・中野七）

▼2回戦

青木平井 2 — 0 上山前多
15 15 — 0 2

須藤細井 2 — 0 小泉川端
15 15 — 0 0

平井田中 2 — 0 明石後藤
15 15 — 2 12

中川山川 2 — 1 荒井末房
18 15 2 — 16 10 15

▼準決勝

青木平井 2 — 0 須藤細井
15 15 — 5 3

平井田中 2 — 1 中川山川
15 15 13 — 6 7 15

▼決勝

青木平井 2 — 0 平井田中
15 15 — 4 5

個人戦は、男子が団体戦に出場しながった選手が大活躍、女子は団体戦をそのまま反映したような対照的な結果となった。男子単を制したのは、皮肉に

も女子の名門・四條畷中の見市。

大柄ながっしりとした体からのスマッシュは威力十分、ネット前へのダッシュもスピードがあり力強いプレーで他を圧した感があった。

準優勝の川本も、長身から鋭いスマッシュを放って健闘、準決勝ではファイナルゲーム、9—14から逆転して福田（四條畷中）を倒し地元の喝采をあびた。

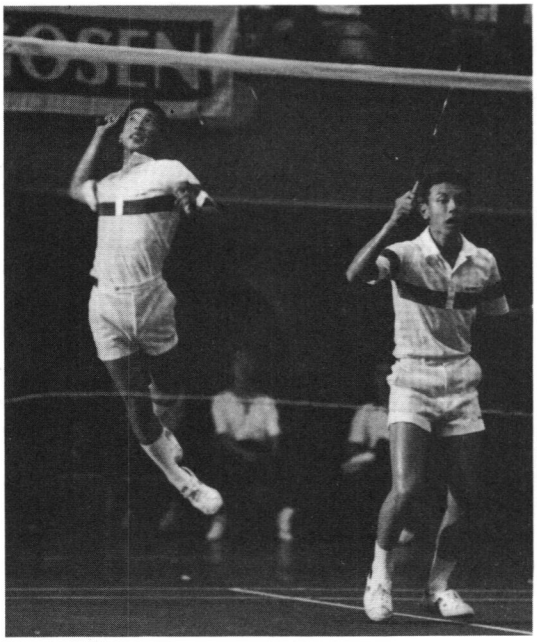
男子複は、意外の大健闘といっては言い過ぎだろうか、熊本県勢の三次・野中組（玉陵中）、福田・松川組（桜山中）が決勝へ進出、好ゲームを展開した。

しかし、総体的に見て年々レベルアップする女子に比べ、男子はまだまだの感が拭い切れない。

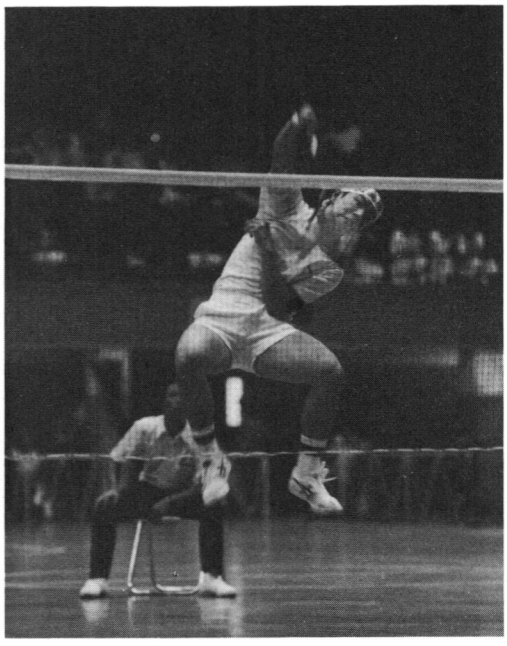
技術よりも体力、勝敗よりも躍動感といったものが見られないからだ。

そして女子は、信愛女中の完勝。

シングルスでは上村が、スロースターターぶりを見せて、準決勝。決勝と先手を取られたが、難なく挽回して初代チャンピオンに輝き、ダブルスでは青木・平井組がまったく相手を寄せつけない完璧なプレーで信愛に三冠をもたらした。



長内・猪俣（栄進中）



見市（四條畷学園中）

まだ2年生の平井は、長身から豪快なジャンプスマッシュを繰り出し、早くも〝期待〟のプレーヤーとして脚光をあびた。

葦原監督は「上村は3年生になってからよく攻撃するようになった。キャプテンとしての自覚がプレーにも表われていた。平井は将来楽しみな選手、世界を目指すプレーヤーに育てたいですね。とにかく、優勝できたのは一にも二にも練習のたまものです」と喜びを語っていた。



閉会式のもよう

IBF（国際バドミントン連盟）ルール改正へ動く

"羽根打ちサービス"が禁止になる!?

去る5月28日、ジャカルタで開かれた国際バドミントン連盟（IBF）の年次総会で、オーストラリア代表が次のような提案をした。

「競技規則14条に次のような項目をつけ加えていただきたい。『次のときはフォルトである。審判の警告にもかかわらず、シャトルの正しいスピードを妨げることをやめない場合』」

これは、最近世界的に流行となっている"羽根打ちサービス"を禁止しようとするものである。

中国、インドネシアから端を発した"羽根打ちサービス"は、マレーシアのシデク兄弟をはじめ、アジア各国にまたたく間に広がった。

日本でも多くのプレーヤーがこのサービスを行なっている。

しかし、今年の全英選手権、世界選手権でヨーロッパの選手が次々とこのサービスに悩まされ、あのテクニシャンのデルフスがノータッチしたという話も伝わっている。

ヨーロッパ的な考え方では、バドミントンというのは、お互いに正々堂々とシャトルを打ち合い、正常な飛行がその基本となるというものである。

左右に上下に大きく揺れるこの"羽根打ちサービス"は、ヨーロッパ選手にいわせれば、きわめて"紳士的でない"というのである。

そしてこの提案となったものであり、提案者はオーストラリアだが、そのバックにはヨーロッパ各国がついていると見るべきである。

しかし、この提案には「サービスのとき」と明言していないため、ラリー中のドロップショットや、スピンのきいたヘアピンも含まれてしまうことになる。

そこでこのルールの運用についてさらに細則を決めるため、10月に委員会が開かれることになった。

その決定を待って、日本の国内競技規則も改正されることになり、その時期は来年4月となる形勢である。

この提案について、

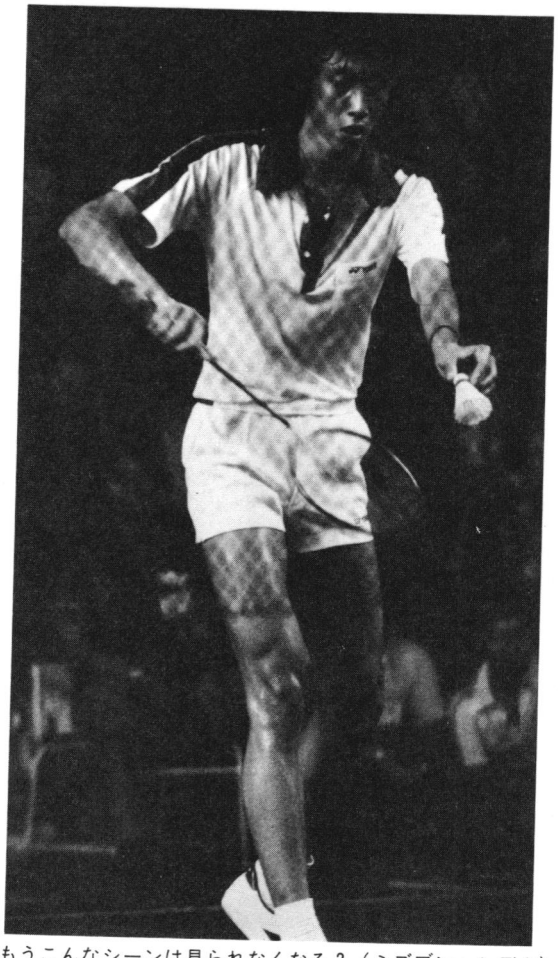
「もっともだと思う。あの羽根打ちサービスは明らかにフェアでないものだし、正当な飛び方をするシャトルを打ち合うバドミントンの基盤をくつがえすもので、当然禁止すべきだ」

という意見と、

「羽根打ちサービスをできないヨーロッパ諸国のイヤガラセ以外の何ものでもない。対応した練習をすべきで、禁止するのはバカげている。長身を利したヨーロッパ勢を有利にさせようという画策だ」

との反対意見があり、プレーヤー、関係者も賛否真っ二つといったところ。

羽根打ちサービスに切りかえた選手は、禁止になることも想定して、今から普通のサービスの練習も、併行して行なっておくべきかも知れない。



もうこんなシーンは見られなくなる？（ミズブン・シデク）

BT

▽1回戦

足羽（福井） 2—1 加納（岐阜）
柏原（大阪） 2—0 徳島市立（徳島）
水島工（岡山） 2—0 山門（福岡）
中央学院（千葉） 2—0 豊見城（沖縄）
日大山形（山形） 2—1 山口（山口）
日川（山梨） 2—0 御坊商工（和歌山）
高岡第一（富山） 2—0 佐世保南（長崎）
会津工（福島） 2—0 佐賀工（佐賀）
伊勢工（三重） 2—0 倉吉西（鳥取）
横手工（秋田） 2—1 桐生（群馬）
中野（長野） 2—1 北海（南北海道）
日大鶴ヶ丘（東京） 2—0 松江商（島根）
洛星（京都） 2—1 鹿児島商（鹿児島）
千厩（宮崎） 2—0 宮崎工（宮崎）
中条工（新潟） 2—1 北須磨（兵庫）
東海（愛知） 2—0 三重農（大分）
越谷南（埼玉） 2—0 府中（広島）

▽2回戦

今市（栃木） 2—0 足羽（福井）
水島工（岡山） 2—1 柏原（大阪）
帯広農（北海道） 2—1 中央学院（千葉）
日大山形（香川） 2—1 高松第一（愛媛）
日川（青森） 2—1 東奥義塾（青森）
高岡第一（高知） 2—1 高知商（高知）
正強（奈良） 2—0 会津工（福島）
伊勢工（茨城） 2—1 石岡第一（茨城）
九州学院（熊本） 2—0 横手工（秋田）
西条農（愛媛） 2—1 中野（長野）
日大鶴ヶ丘（静岡） 2—0 富士宮北（静岡）
金沢市工（石川） 2—1 洛星（京都）
高松商（香川） 2—0 千厩（宮崎）
横浜立野（神奈川） 2—0 中条工（新潟）
仙台第一（宮城） 2—0 東海（愛知）
比叡山（滋賀） 2—0 越谷南（埼玉）

▽3回戦

今市 2—0 水島工
帯広農 2—1 日大山形
日川 2—1 高岡第一
正強 2—1 伊勢工
九州学院 2—0 西条農
金沢市工 2—1 日大鶴ヶ丘
横浜立野 2—0 高松商
比叡山 2—1 仙台第一

▽準々決勝

今市 2—0 帯広農
正強 2—0 日川
九州学院 2—0 金沢市工
比叡山 2—0 横浜立野

▽準決勝

今市 2—0 正強
大堀円 2 (15—15, 15—7) 0 佐藤敦
鈴木純一 2 (15—15, 5—15, 15—9) 1 貴田覚
大島正志 2 (15—15, 15—7) 0 古賀勝志
比叡山 2 (2—1) 九州学院
西山祥一 0 (7—7, 7—15) 2 伊東幸男
田辺一夫 2 (7—15, 15—11, 15—11) 1 福田和幸
山本裕幸 2 (15—15, 15—1, 3—0) 0 東俊郎
馬杉武司 2 (15—7, 15—11, 15—11) 1 本石大介
竹端英夫 堺圭一

▽決勝

比叡山 2—1 今市



GT

▽1回戦

磐城女（福島） 2—0 日和佐（徳島）
西山杉本 0 (10—15, 12—15) 2 大堀鈴木
山本馬杉 2 (15—15, 15—11, 8—0) 0 大島石下
竹端 2 (15—15, 4—0) 0 大森
札幌啓北商（南北海道） 2—1 甲府湯田（山梨）
山陽女（岡山） 2—0 石川（沖縄）
川口女（埼玉） 2—0 福山葦陽（広島）
土佐女（高知） 2—0 松阪商（三重）
高岡女（富山） 2—0 宮崎商（宮崎）
巣鴨女（東京） 2—0 米子西（鳥取）
佐賀女（佐賀） 2—0 山形城北女（山形）
下館第二（茨城） 2—1 岐阜女商（岐阜）
吉原（静岡） 2—1 八幡大付女（福岡）
横浜立野（神奈川） 2—0 福井（福井）
鶴鳴女（長崎） 2—0 御坊商工（和歌山）
昭和学院（千葉） 2—0 早鞆（山口）
昭和女（大分） 2—1 須坂東（長野）
西条農（愛媛） 2—0 遠野（岩手）
国学館（秋田） 2—0 松江商（島根）
渋川女（群馬） 2—0 沖永良部（鹿児島）

▽2回戦

四条畷学園 2—0 磐城女（大阪）
山陽女 2—1 札幌啓北商
熊本中央女 2—0 川口女（熊本）
金沢向陽 2—1 土佐女（石川）
高岡女 2—0 成安女（京都）
聖ウルスラ学院(宮城) 2—0 巣鴨女
高松中央 2—1 佐賀女（香川）
園田学園 2—0 下館第二（兵庫）
比叡山 2—0 吉原（滋賀）
砂川南 2—1 横浜立野（北北海道）
高松西 2—0 鶴鳴女（香川）
千葉学園 2—0 昭和学院（青森）
帝塚山 2—0 昭和女（奈良）
小山城南 2—0 西条農（栃木）
愛知淑徳 2—0 国学館（愛知）
新潟青陵 2—0 渋川女（新潟）
▽3回戦
四条畷学園 2—0 山陽女
熊本中央女 2—0 金沢向陽
高岡女 2—0 聖ウルスラ学院
園田学園 2—0 高松中央
比叡山 2—0 砂川南
千葉学園 2—0 高松西
小山城南 2—0 帝塚山
新潟青陵 2—0 愛知淑徳
▽準々決勝
熊本中央女 2—0 四条畷学園
高岡女 2—0 岡田学園
千葉学園 2—0 比叡山
新潟青陵 2—0 小山城南
▽準決勝
熊本中央女 2—0 高岡女
高峯和子 15—2 広瀬和代
井村由美 2 15—8 0 田向和子
陣内貴美子 2 12—11 8 0 今川真理子
新潟青陵 2—1 千葉学園
松井保恵 0 13—18 10 15 2 佐藤啓子
石崎咲知子 藤永由香
野上満子 2 11—5 11—7 0 西岡孝子
山田登美子 2 15—10 15—12 0 小池かおり
山内美子 橋本真由美
▽決勝
熊本中央女 2—1 新潟青陵
陣内 15—7 15—4 松井
高峯(尚) 2 0 石崎
畑野 0 0—11 1—11 2 野上
高峯(和) 2 17—14 15—6 0 山田
井村 山内

BS

▽1回戦
羽田義仁(金沢市工) 2—1 菊地義幸(宮城県工)
横尾宣幸(石岡第一) 2—1 土江広宣(出雲商)
峰登志郎(越ヶ谷) 2—0 森田英樹(塩田工)
戸崎友博(岐阜工) 2—1 十河昌一(高松商)
児島智(新宮) 2—0 村上広明(柳井工)
塩入誠司(長岡商) 2—0 井上雄二(若松商)
森麻愛木(高岡工) 2—0 青木久郎(桐生)
目野俊昭(山門) 2—0 玉井隆(甲南)
戸田信彦(秋田南) 2—0 遠藤克幸(徳島商)
元田正勝(鹿児島) 2—0 藤原隆司(倉吉工)
石原潔(洛星) 2—0 岡村久人(富島)
鈴木建一(千葉北) 2—0 竹崎和男(高知商)
伊藤善彦(更級農) 2—1 村上一雄(千厩)
長谷川和弥(目大鶴ヶ丘) 2—1 小森邦寛(帯広柏葉)
中村稔(一条) 2—0 丹羽正(伊勢工)
高田敏規(府中) 2—0 宮城博也(糸満)
岩崎清次(郡山商) 2—0 江坂俊郎(瓊浦)
鵜木秀夫(桐生) 2—1 福井猛(高松商)
仁田正雄(柏原) 2—1 川越功(横手工)
中嶋修(金沢市工) 2—0 天野幸司(富士宮北)
前淳一(松江商) 2—0 英田雄三(高松商)
近藤公輔(大川) 2—0 高橋克己(小松原)
本水英司(那覇) 2—0 堀浩平(甲南)
竹原雅之(東海) 2—0 松本好弘(府中)
安楽誠(鹿児島商) 2—1 宮健次(日川)
早坂靖志(仙台第一) 2—0 中尾孝司(御坊商工)
藤野和則(若松) 2—0 中村哲(日大山形)
前田忠則(足羽) 2—0 木村孝(紫野)
上村努(石岡第一) 2—0 竹村道男(西条農)
横田忠司(中野) 2—0 家永英樹(塩田工)
栗原敏洋(富島) 2—0 高橋圭司(水沢商)
神谷道夫(岐阜商) 2—0 内山秀樹(柳井工)
▽2回戦
井上哲章(熊本商大付) 2—0 羽田(横尾)
谷田尚嗣(清水谷) 2—0 横尾(峰)
小飼清統(北海) 2—1 峰(戸崎)
戸崎 2—1 西江均(東岡山工)
大堀円(今市) 2—0 児嶋(塩入)
塩入 2—0 曽我部豊(西条農)
森麻 2—1 富田俊二(名古屋電気)
丸山清春(東奥義塾) 2—0 目野(松野修二)
松野修二(日川) 2—0 戸田(松浦進二)
松浦進二(草津) 2—0 元田(阿部浩志)
阿部浩志(山形市商) 2—0 石原(鈴木)
鈴木 2—0 渡辺高博(富士宮北)
山道正義(高松商) 2—0 伊藤(長谷川)
長谷川 2—0 伊藤信英(長崎東)
中村 2—0 三田美洋一(横浜立野)
井上哲也(足羽) 2—0 高田(井村)

山本裕幸（比叡山） 2—0 岩崎（鵤木）

仁田（日大鶴ヶ丘） 2—0 佐藤次郎（松野）

堺圭一（九州学院） 2—0 中嶋（弘前南）

柳谷辰哉（弘前南） 2—1 前（丸山晃男）

丸山晃男（三条商） 2—0 近藤（豊田裕）

豊田裕（日大） 2—0 本永（竹原）

竹原（高知商） 2—0 矢野成一（古賀）

安楽（伊勢工） 2—0 梅津裕一（大島）

西本幸夫（高岡第一） 2—1 早坂（藤野）

藤野（高松商） 2—0 灘波猛（若林邦任）

若林邦任（水島工） 2—0 前田（古賀勝志）

古賀勝志（正強） 2—0 上村（横田）

横田（帯広三条） 2—0 水崎忍（栗原）

栗原（城南） 2—1 福家秋男（大島）

大島正志（今市） 2—0 神谷（若林）

▽3回戦

井上 2—0 谷田（井上）

小飼 2—1 戸崎（大堀）

塩入 2—0 森（麻生）

森 2—0 鈴木（松浦）

松浦 2—1 丸山（阿部）

阿部 2—0 長谷川（山道）

中村 2—0 鵤木（山本）

仁田 2—0 柳谷（堺）

竹原 2—0 豊田（丸山）

丸山 2—0 藤野（若林）

安楽 2—0 栗原（西本）

横田 2—0 古賀（古賀）

松浦 2—0 丸山（井上）

▽準々決勝

井上 2—0 丸山（松野）

西 2—1 古賀（大島）

丸山 2—0 山道（山本）

井上 2—1 井上（松野）

石原 2—0 児嶋（丸山）

戸崎 2—0 栗原（大島）

▽4回戦

井上 2—0 戸崎（井上）

丸山 2—0 児嶋（石原）

山道 2—1 井上（山道）

丸山 2—0 西（豊田）

山本 2—0 山道（豊田）

大島 2—0 若林（大島）

▽準決勝

井上 2
(15—7 15—9)
0 松野

山本 2
(15—3 15—12)
0 大島

▽決勝

井上 2
(15—10 18—16)
0 山本



GS

▽1回戦

中村恵子（山形北） 2—0 川尻早苗（札幌啓北商）

北村雅美（八幡大付女） 2—0 鹿田祥子（松江商）

永井明美（高松中央） 2—0 寺島めぐみ（愛国）

石橋伊都子（帝塚山） 2—0 中島真美（新島学園）

池田美津枝（中野） 2—0 藤村恵美（千厩）

田中美千代（岐阜女商） 2—1 佐名美幸（昭和）

山田千満子（成安女） 2—0 竜田康子（福井商）

阿部茂子（園田学園） 2—0 渡辺まゆみ（下館第二）

一色由佳恵（西条農） 2—1 山内ひとみ（石川）

平山美恵子（比叡山） 2—0 進藤由子（木更津東）

武田琴美（日和佐） 2—0 岡田真理子（鳥取東）

小林和美（佐賀女） 2—1 児玉 礼（秋田）

日向明子（金城） 2—0 岡村可奈江（早鞆）

大迫容子（純心女） 2—0 森美紀子（聖ウルスラ）

田向和子（高岡女） 2—0 川口美由紀（川口女）

和智砂織（甲府湯田） 2—1 尾崎友美（静岡城北）

村山富子（宮崎南） 2—0 谷口三枝（新宮商）

宝田美世子（比叡山） 2—0 堀田明美（出水商）

橋本美和（安積商） 2—0 堀江紀子（松江商）

金田尚美（新庄南） 2—0 崎山優子（松山東）

白井美由起（木更津東） 2—0 夏目誠子（津）

小池かおり（千葉学園） 2—1 阿部正子（園田学園）

北崎百合子（鉾田第二） 2—0 野村真理子（昭和女）

中原弘子（柳井工） 2—1 川端拓子（鶴鳴女）

佐野静枝（川口女） 2—0 斉藤 都（長野西）

酒井祐理子（砂川南） 2—0 窪田和恵（甲府湯田）

磯村久美（福岡女） 2—1 富永久美子（掛川西）

岡崎敬子（新宮） 2—0 三浦美智子（国学館）

吉田二代（新島学園） 2—0 南久美子（宮崎商）

奥田恭子（愛知淑徳） 2—0 安仁屋弘枝（宜野座）

坂田紀世美（砂川南） 2—0 仁紫洋子（自疆）

植松弘美（成安女） 2—1 宮崎洋子（金城）

山本裕子（土佐女） 2—0 和田理絵（米子西）
熊沢加代子（横浜立野） 2—0 千葉陽子（釜石北）
▽2回戦
野上満子（新潟青陵） 2—0 中村智
永井（北村） 2—0 石橋（高見みどり）
奥村ひろみ（愛知淑徳） 2—0 池田（鶴鳴女）
高橋アキ子（小山城南） 2—0 田中
野本雅子（土佐女） 2—0 山田
阿部（岩崎由紀子）（三原） 2—0 一色
藤永由香（千葉学園） 2—0 平山
高峯和子（熊本中央女） 2—0 関矢亮子（松阪女）
屋代利子（横浜女商） 2—0 小林
和田美津子（滝川西） 2—0 日向
松田（大迫）（四条畷学園） 2—0 竹原桂子（山陽女）
田向

鈴木紀恵（磐城女） 2—0 和智
高嶋満里子（高松西） 2—0 竹山
平間真由美（小山城南） 2—1 宝田
橋本（浜口園子）（日和佐） 2—0 江口佐和美（佐賀女）
山内美子（新潟青陵） 2—0 白井
山内佳子（高松中央） 2—1 小池
高桑清美（札幌静修） 2—0 北崎
中原（尾崎秀子）（一条） 2—0
小川美智子（岐阜女商） 2—0 佐野
尾崎升美（四条畷学園） 2—0 酒井
今川真理子（高岡女） 2—0 磯村
平田浩子（善通寺一） 2—0 岡崎
原田美和（山陽女） 2—0 吉田
岡安千江美（日大鶴ヶ丘） 2—0 奥田
皆川直美（聖和学園吉田） 2—0 坂田

植松 2—0 山本
陣内貴美子（熊本中央女） 2—0 熊沢
▽3回戦
野上 2—0 永井
石橋 2—0 奥村
高橋 2—1 野本
藤永 2—0 阿部
高峯 2—0 武田
屋代 2—0 和田
田向 2—0 松田
高嶋 2—0 鈴木
山内 2—0 金田
平間 2—0 橋本
中原 2—0 小川
今川 2—1 尾崎
皆川 2—0 岡安
原田 2—1 平田
陣内 2—0 植松
▽4回戦
野上 2—0 石橋
藤永 2—0 高峯
高峯 2—0 屋代
高嶋 2—0 田向
平間 2—1 山内
山内 2—0 中原
今川 2—0 原田
陣内 2—0 皆川
▽準々決勝
野上 2—0 藤永
高峯 2—0 田向
山内 2—1 平間

陣内 2—0 今川
▽準決勝
陣内 2（11—11 11—1）0 山内
高峯 2（11—12 11—4）0 野上
▽決勝
高峯 2（11—3 11—11）0 陣内



BD

▽1回戦
樋口・森 2—1 大山・島松（羽島）
高橋・斉藤 2—0 佐久間・佐藤（小松原）
畠下・池田 2—0 二畑・高田（琴海）
上村・飯村 2—0 高橋・及川（石岡一）
峰・田中 2—0 中村・千葉（洛星）
福家・浜松 2—1 村上・内山（城南）
原・奈良 2—0 岡田・吉田（日大）
横田・畔上 2—1 戸田・吉田（中野）
藤野・道野 2—0 菊地・狩野（若松）
真田・宮本 2—0 英田・岩崎（金沢市工）
児嶋・児嶋 2—0 川崎・酒井（新宮）
山田・山岸 2—0 木村・江浪（会津工）
仁田・河内 2—0 杉浦・小野寺（柏原）
大沢・大出 2—1 福田・猪八重（桐生市商）
安慶・金城 2—1 井上・毛利（豊見城）
飯塚・内田 2—0 横山・上原（日川）



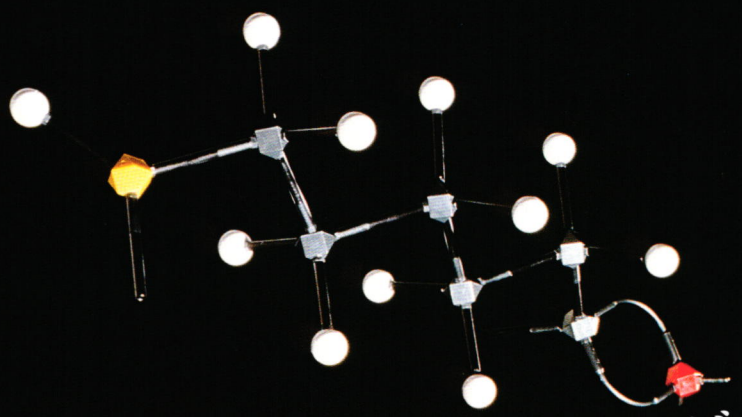
いま、鮮烈のプロショップ

RACKETSHOP
Motomachi

ラケットショップ元町

◉横浜 Tel：5F/045-651-2020・045-662-9857 4F/045-662-7133◉渋谷Tel:03-400-7390◉池袋
Tel:03-988-0215◉吉祥寺Tel:0422-21-7890◉藤沢Tel:0466-26-2552◉町田Tel:0427-28-6050

ザ・サイエンスガット。



科学がガットに生命を吹き込んだ。

ゴーセンが生んだインターナショナルブランド、ハイ・シープ®。ナイロンガットの可能性を徹底的に引きだした、ひとつの頂点。打球感、反発力、耐久性、コントロール性。極限を超えた、科学の結晶。ナイロンガットではない、これはもうサイエンスガットだ。トップブランドとしての誇りを持って、コートの上で暴れ続ける。

さらに、ハイ・シープ®の技術力をベースにしたサイエンスガット群が、バドミントン界を震撼させる。

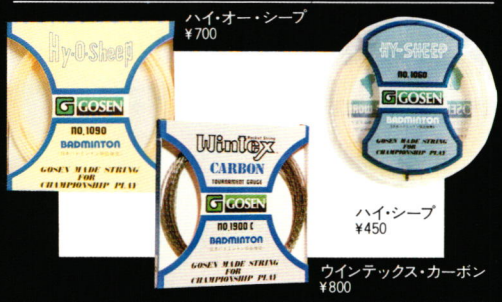
破壊力ある豪快なショットを可能にするウインテックス®・カーボン。

特殊油入り中空糸とワイヤー巻きつけの技術が生んだ驚異の瞬発力を持つガットなど……。

個性光って、10タイプ。すべてのガットに、科学が生命を吹きこんでいる。

コートの上でその生命力は爆発する。実感して欲しい。

★ガットのGOSENの文字をお確かめのうえお買い求めください。



ハイ・オー・シープ ¥700

ハイ・シープ ¥450

ウインテックス・カーボン ¥800

道具がプレーを変える

GOSEN

株式会社 ゴーセン

本　　社 ● 〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942 5816代
東京支店 ● 〒111 東京都台東区蔵前4 14 2　☎ (03)862 6576代
福岡営業所 ● 〒810 福岡市中央区薬院1 4 8　☎ (092)712 5247代
北陸営業所 ● 〒921 石川県金沢市横川7 22　☎ (0762)47 0200代

ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

760㎡(230坪)の広々とした店内でゆったりショッピング。

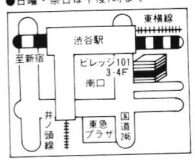


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ヒレッジ101ビル3・4階) TEL03-464-9251〜2〒150
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

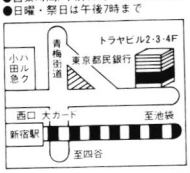


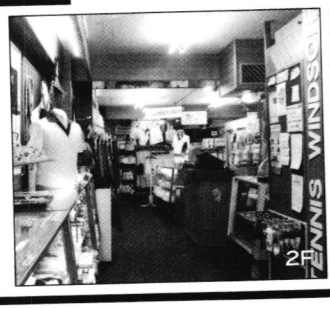
新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2・3・4階) TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

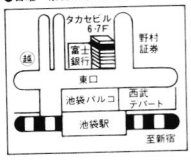


池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4(タカセビル6・7階) TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



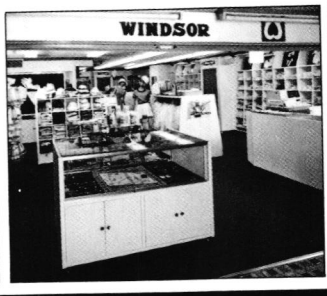




横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



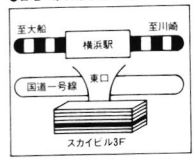


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口
(スカイビル3階)TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時〜午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで

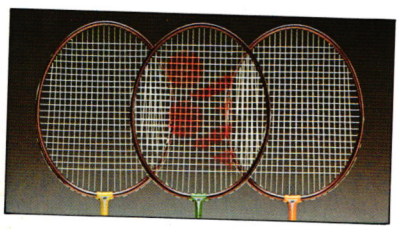


日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

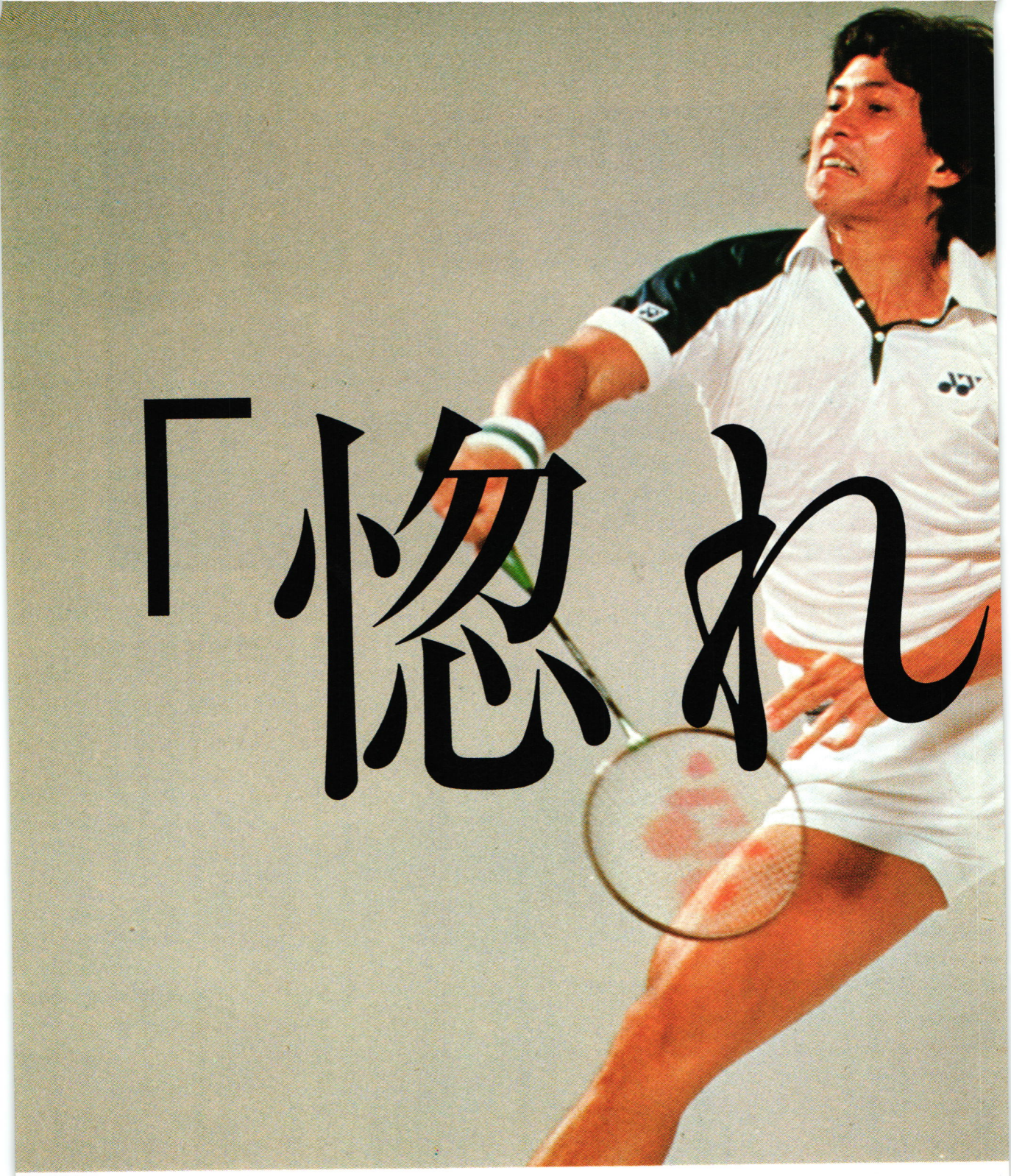
(C)輪のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

リム・スイ・キング
Liem Swie King
'78・'79全英バドミントン選手権チャンピオン

こめ。」



YONEX®



リム・スイ・キングの片腕。ヨネックス。

全英バドミントン選手権シングルス2連勝。ワールドカップ'79・'80、これも2連勝という実績を誇るリム・スイ・キングとヨネックスががっちりと手を結んだ。今、私の手のなかにあるのはヨネックス。まさに片腕。勝つ自信がますますわいてきた。と語るリム。フルカーボンシャフト。特殊アルミ合金フレームの超軽量ラケットB-8500にすっかり惚れこんでいる。ラケットは軽くするとヤワになるという常識を破り、超軽量100g以下という驚くべき記録をたてたヨネックス。勝者リム・スイ・キングと組んでますますコートのスターを独占。

B-8500 FULL CARBON SHAFT RACKET
Carbonex8

〈カーボネックス・エイト〉‥色/イエロー・オレンジ・グリーン
重量表示/U(99g～95g)2-U(94g～90g)

玄海灘にはばたく

バドミントン・クラブ ファミリーバード



北九州市

九州の玄関口北九州市、提燈山笠で有名な戸畑区、この戸畑区のネオン街から、ちょっと離れた小高い丘の上に、桜の名所で名高い〝夜宮青少年センター〟があります。

このセンター内では、同じ目的を持った青少年が、いろいろなサークル活動をしています。卓球、バドミントン、バレーボール、音楽、美術工芸など……。

これらのサークルの中に、バドミントンを主体に活動しているサークルが五つあります。その中の一つ、火曜日のサークルが、5年前に誕生した我がクラブ〝ファミリーバード〟です。その名のとおり、シャトルを追いかけて、家族的なサークル活動を目指し、結成されました。

あれから5年、最初はまったくの素人集団でしたが、今では市の大会でも、A級に属するペアが何組かできました。現在、会員は約30名、初心者からA級まで、20代から30代後半という、幅広い構成員によって、支えられています。

発祥が夜宮青少年センターであったことも関係してか、会員はほとんど独身の男女ですが、5年も経ったせいか、最近は特に男子は妻帯者がふえ、だいぶロートル化してきました。また、5年目にして初めて、会員同志の永久カップルが誕生しました。

我がクラブの目的は「一に練習、二に練習、三、四、がなくて五に試合」といった厳しいものですが、なにぶんにもそこは、社会人クラブ。男子は残業、女子はおけいこごと、といった大義名分には勝てません。それでも毎週の練習日には、何とかやりくりつけて、職場でのストレスを発散すべく、集まってきます。

現在、練習日は週3日、それと月に一度、日曜日に体育館を借りて、よそのチームを招き、練習試合をしています。

社会人クラブの泣きどころは、やはり第一に、体育館の確保と財源の維持です。企業内クラブと異なって、クラブ専有の体育館があるわけではなく、会社からの部ヒの援助があるわけでもありません。

設立当初の練習日は、週1日でしたが、これではとても物足りず、現副会長に東奔西走してもらい、何とか週3日、練習できるようになりました。

最近は、練習場の面では、市政の充実により、各所に市の体育館が開設され、低料金で利用できるようになりましたが、財源の方は、相変わらず苦しく、5年目にして、ついに値上げせざるを得ない状態となりました。諸物価高騰により、シャトル代の値上がりも、痛いものです。

練習日は、人数の割にコートが少ないので、おしゃべりをしている暇はありません。大会の日は、今までの成果を発揮すべく、のびのびとプレーをし、試合の合い間には、女性軍手造りの弁当を広げ、世間話に花を咲かせています。それぞれ、ちがった分野で働いている人たちの集りですので、社会人クラブ独得の楽しさがあります。御多分にもれず、我がクラブも何かあれば、宴会です。



ひと汗流したあと





夜宮スポーツ交流
バドミントン大会にて

設立当初は、部長の独断と偏見により、強引にクラブを運営してきましたが、2、3年前からは、運営委員会の手により、民主的に運営されるようになりました。年間の活動方針、会計報告、会の運営方法などは、すべて総会で決定されます。総会は、年一回開かれますが、時には温泉や、県の青年の家などを利用して、合宿を兼ねた、社会人らしい硬軟両様の研修も実施しています。

大会は、市の協会主催の大会が年に4回ほどあります。それ以外に、夜宮青年センター内での大会が、年に数回開かれます。こちらの試合は、青少年の交流を重視した大会ですので、勝敗が目的ではありませんが、毎年変化に富んだ、ユニークな企画で実施されています。青春時代の一過程として、非常に有意義に活用させていただいています。青少年センターの職員の方々の力強い御指導と御援助により、また運営委員の方々の努力により、長いあいだ継続されています。

センター内以外のバドミントンサークルも我々と同じように、素人集団からの出発でしたが、最近はレベルも相当高くなりました。戸畑区が、5年前から、支部の大会が開催できるようになったのも、ファミリーバードの現副会長の尽力と、夜宮青少年センターの方方が、土台造りをしたといっても過言ではないでしょう。

クラブ内の大会は、毎年一回開催しています。これは、副会長の寄贈による、大きなカップの争奪戦ですが、クラブの親睦を目的とした、部内のレクリエーション的な試合です。この日は、今まで転勤その他の理由で退部していった、OG、OBも招いて、部員はもちろん家族も含めて、楽しいゲームを展開しています。

我がクラブも結成してはや5年。どうにかクラブの基盤も固まってきました。これからは、さらにクラブの発展に努力するとともに、県および全国規模の大会に参加できるよう、精進したいと思います。

戸畑区は、北九州七区の中でも、最もバドミントンの普及におくれた区ですので、小中学生の育成や、ママさんクラブの指導にも、少しずつ力を入れていきたいと思います。そして今以上に幅広い階層の人々に親しまれるクラブ造りに努力したいと思っています。我がクラブの主旨である〝ファミリー〟という言葉どおり、クラブ員の家族、また自分たちの二世、三世の代まで、ラケットを握ることができるよう、ファミリーの輪を広げていきたいと思います。

最後に、市の大会は、すべて個人戦であり、そうかといって社会人クラブという形では、実業団の試合に参加する資格がありません。

福岡県近県の社会人クラブで、団体戦の定期戦ができるようなクラブがありましたら、ぜひ交流を深めていきたいと思いますので、御連絡ください。

▼連絡先
〝ファミリーバード〟代表・畠生文利
〒804　北九州市戸畑区一枝3－5－24
電話・093－882－5650



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市葺合区八雲通３－１－25

☎078(232)1991(代)

北川・藤川 2—0 小西・板東
（小樽桜陽） （徳島市立）
鈴木・秋山 2—0 石原・樋端
（会津工） （洛星）
谷川・伴 2—1 管原・村上
（四日市） （千厩）
荒木・石倉 2—1 高野・鴨下
（山門） （中央学院）
毛利・林田 2—1 植野・河野
（足羽） （高松西）
野口・平岡 2—0 堀・桜井
（江戸崎西） （甲南）
早水・米良 2—1 長池・甲斐
（茨木工） （宮崎工）
西野・藤本 2—0 本間・松木
（不工越工） （山口）
平岡・矢野 2—1 数井・藤田
（松山南） （船津）
峰・平山 2—0 黒沢・早坂
（越ヶ谷） （仙台第一）
中村・菊地 2—0 森田・田中
（一条） （塩田工）
工藤・桜庭 2—0 高橋・松村
（弘前実） （桐生）
田口・岩井 2—0 松岡・富田
（日大鶴ヶ丘） （名電工）
安楽・松本 2—0 大岡・土江
（鹿児島商） （出雲商）
山城・本永 2—0 松本・馬場
（那覇） （府中）
山岸・上野 2—0 吉永・中前
（須坂東） （新宮）

▽2回戦

山本・馬杉 2—0 樋口・森
（比叡山）
高橋・斉藤 2—0 京河・宮田
（松山商）
井上・前田 2—0 畠下・池田
（足羽）
上村・飯村 2—1 小飼・水戸
（北海）
戸村・加藤 2—0 峰・田中
（宇都宮南）
梅津・志田 2—0 福家・浜松
（米沢工）
納所・荻田 2—0 原・奈良
（伊勢工）
山道・福井 2—1 横田・畔上
（高松商）
井上・吉弘 2—0 藤野・道野
（熊本商大付）
貴田・古賀 2—0 真田・宮本
（正強）
長谷川・佐藤 2—0 児嶋・児嶋
（日大鶴ヶ丘）
山田・山岸 2—1 竹原・野々部
（東海）
仁田・河内 不戦勝 田枝・天野
（水島工）
野々宮・矢部 2—1 大沢・大出
（土佐）
中畑・福士 2—0 安慶・金城
（弘前実）
西本・上田 2—0 飯塚・内田
（高岡第二）

大島・大堀 2—0 北川・藤川
（今市）
鈴木・秋山 2—1 丸山・梨本
（日大）
谷川・伴 2—0 正木・本田
（三条商） （倉吉西）
矢野・山口 2—0 荒木・石倉
（高知商）
高橋・伊藤 2—0 毛利・林田
（日大山形）
本石・堺 2—0 野口・平岡
（九州学院）
豊田・杉山 2—0 早水・米良
（日大）
西野・藤本 2—0 渡辺・天野
（富士宮北）
小森・駒込 2—0 平岡・矢野
（帯広柏葉）
伊藤・米田 2—1 峰・平山
（長崎東）
羽田・村松 2—0 中村・菊地
（金沢市工）
工藤・桜庭 2—0 若林・片岡
（水島工）
田口・岩井 2—0 灘波・十河
（高松商）
竹端・杉本 2—0 安楽・松本
（比叡山）
山城・本永 2—0 川越・樋場
（横手工）
松野・宮 2—0 山岸・上野
（日川）

▽3回戦

山本・馬杉 2—0 高橋・斉藤
上村・飯村 2—1 井上・前田
戸村・加藤 2—1 梅津・志田
山道・福井 2—0 納所・荻田
貴田・古賀 2—0 井上・吉弘
長谷川・佐藤 2—0 山田・山岸
仁田・河内 2—0 野々宮・矢部
西本・上田 2—0 中畑・福士
大島・大堀 2—0 鈴木・秋山
矢野・山口 2—0 谷川・伴
本石・堺 2—1 毛利・林田
西野・藤本 2—0 豊田・杉山
小森・駒込 2—0 伊藤・米田
羽田・村松 2—0 工藤・桜庭
竹端・杉本 2—0 田口・岩井
松野・宮 2—0 山城・本永

▽4回戦

山本・馬杉 2—0 上村・飯村
戸村・加藤 2—1 山道・福井
長谷川・佐藤 2—0 貴田・古賀
西本・上田 2—0 仁田・河内
大島・大堀 2—0 矢野・山口
西野・藤本 2—0 本石・堺
羽田・村松 2—0 小森・駒込
松野・宮 2—1 竹端・杉本

▽準々決勝

山本・馬杉 2—0 戸村・加藤
西本・上田 2—1 長谷川・佐藤
大島・大堀 2—0 西野・藤本
松野・宮 2—0 羽田・松村

▽準決勝

大島 2（棄権）0 松野
大堀 宮

山本
馬杉 2
15 15
7 9
0 西本
上田

▽決勝

山本
馬杉 2
15 15
6 8
0 大島
大堀



GD

▽1回戦

田中・野田 2—0 田畑・福島
（岐阜女商） （下関南）
稲川 大吉 2—0 井畑・林
（下館第二） （向陽）
広瀬・田向 2—0 高桑・笠原
（高岡女） （静修）

渡辺・金子 2—1 吉田・北村
（城北女）　（新島学園）
盛永・江口 2—0 山本・北代
（佐賀女）　（土佐女）
和智・山村 2—0 野村・一ノ宮
（甲府湯田）　（昭和女）
坂田・白川 2—0 武田・浜
（福井）　（日和佐）
北村・古賀 2—0 藤村・千葉
（八幡大付女）　（千厩）
松田・押切 2—0 池田・小林
（四条畷学園）　（中野）
幸崎・中尾 2—0 小林・高田
（中央学院）　（福山葦陽）
中川・西村 2—0 金城・徳里
（大津）　（糸満）
山田・石崎 2—0 小松・大竹
（新潟青陵）　（横浜立野）
大橋・高木 2—0 斉藤・鈴木
（磐城女）　（松阪商）
青木・皆川 2—0 栗原・田部井
（聖和吉田）　（田女）
尾崎・小林 2—0 堀江・猪飼
（一条）　（松江商）
井出・遠藤 2—0 阿部・佐藤
（吉原）　（羽後）
益崎・天野 2—0 米沢・小倉
（弓削）　（小林商）
長谷・杉本 2—0 馬場・松田
（金沢一水）　（八幡大女）
中村・乾 2—1 窪田・三上
（下関南）　（甲府湯田）

石橋・尾崎 2—0 近藤・光崎
（帝塚山）　（愛知淑徳）
竹根・土田 2—1 山内・平良
（大野）　（石川）
小川・武田 2—0 堀田・松永
（盛岡第四）　（出水商）
川口・佐野 2—0 小林・仁紫
（川口女）　（自彊）
阿部・阿部 2—0 田渕・小林
（園田学園）　（佐賀女）
鈴木・遠藤 2—0 飯塚・堀内
（磐城女）　（松陽）
渡辺・日向 2—0 斉藤・信太
（下館第二）　（国学館）
宝田・山極 2—0 佐名・宮本
（比叡山）　（昭和女）
柴田・菅原 2—1 中川・北野
（米子西）　（徳島商）
鈴木・吉田 2—0 中山・佐藤
（昭和学院）　（須坂東）
篠崎・谷口 両者棄権 鹿田・金山
（新宮商）　（松江商）
吉野・中島 2—0 野崎・新田
（新島学園）　（小林商）
小池・橋本 2—0 高見・阿武屋
（千葉学園）　（鶴鳴女）
石田・望月 2—0 矢野・波上
（吉原）　（弓削）
佐藤・有川 2—0 山田・阪口
（宇都宮女商）　（成安女）
▽2回戦
高峯・陣内 2—0 田中・野田
（熊本中央女）

広瀬・田向 2—0 稲川・大吉
渡辺・金子 2—1 植松・北村
（成安女）
奥村・奥田 2—1 盛永・江口
（愛知淑徳）
西岡・佐藤 2—0 和智・山村
（千葉学園）
坂田・白川 2—0 原田・竹原
（山陽女）
佐々木・小林 2—0 北村・古賀
（日大鶴ヶ丘）
松田・押切 2—0 佃・真鍋
（高松中央）
酒井・瀬川 2—0 幸崎・中尾
（砂川南）
中川・西村 2—0 安藤・山本
（善通寺第一）
川端・広瀬 2—0 山田・石崎
（鶴鳴女）
河原・加藤 2—0 大橋・高木
（岡田学園）
青木・皆川 2—1 宮崎・日向
（金城）
大迫・高附 2—0 尾崎・小林
（純心女）
井出・遠藤 2—0 和田・菅原
（米子西）
高橋・湯沢 2—0 益崎・天野
（小山城南）
松田・新木 2—0 長谷・杉本
（四条畷学園）
金田・東海林 2—0 中村・乾
（新庄南）

石橋・尾崎 2—1 野本・田内
（土佐女）
岡安・長岡 2—0 竹根・土田
（日大鶴ヶ丘）
志村・竹中 2—0 小川・武田
（帯広大谷）
川口・佐野 2—1 今川・原田
（高岡女）
阿部・阿部 2—0 関矢・山川
（松阪女）
熊野・山内 2—0 鈴木・遠藤
（高松中央）
小川・高橋 2—1 渡辺・日向
（岐阜女商）
宝田・山極 2—0 轟・天野
（山陽女）
品川・佐藤 2—0 柴田・菅原
（聖ウルスラ）
森山・三田 2—0 鈴木・吉田
（信愛女学院）
高嶋・山地 不戦勝
（高松西）
川尻・笹森 2—0 吉野・中島
（札幌啓北商）
小池・橋本 2—0 石田・望月
野上・山内 2—0 佐藤・有川
（新潟青陵）
▽3回戦
高峯・陣内 2—0 広瀬・田向
奥村・奥田 2—1 渡辺・金子
和智・山村 2—0 坂田・白川
松田・押切 2—0 佐々木・小林
中川・西村 2—0 酒井・瀬川

河原・加藤 2—0 川端・広瀬
青木・皆川 2—0 大迫・高附
高橋・湯沢 2—0 井出・遠藤
松田・新木 2—0 金田・東海林
岡安・長岡 2—0 石橋・尾崎
川口・佐野 2—0 志村・竹中
阿部・阿部 2—1 熊野・山内
宝田・山極 2—1 小川・高橋
森山・三田 2—0 品川・佐藤
高嶋・山地 2—0 川尻・笹森
野上・山内 2—0 小池・橋本
▽4回戦
高峯・陣内 2—0 奥村・奥田
西岡・佐藤 2—1 松田・押切
河原・加藤 2—0 中川・西村
高橋・湯沢 2—1 青木・皆川
松田・新木 2—0 岡安・長岡
川口・佐野 2—1 阿部・阿部
宝田・山極 2—0 森山・三田
野上・山内 2—0 高嶋・山地
▽準々決勝
高峯・陣内 2—0 西岡・佐藤
高橋・湯沢 2—0 河原・加藤
川口・佐野 2—1 松田・新木
野上・山内 2—0 宝田・山極
▽準決勝
高峯 2 (15—0, 15—5) 0 野上
陣内 (15—3) 0 湯沢 高橋
野上 2 (15—12, 15—8) 0 佐野 川口
山内
▽決勝
高峯 2 (15—5, 15—5) 0 山内
陣内

第13回日韓高校交歓バドミントン競技会★8・23〜24★栃木県真岡市

韓国チーム、パワーとスピードで圧倒

井上、高峯も健闘及ばず

第13回日韓高校交歓バドミントン競技会が、8月23日と24日の両日、栃木県真岡市総合体育館で行われた。

過去数年圧倒的強さを誇る韓国高校選抜チームだが、今年の予想では、男子は五分五分、女子については韓国やや優位といわれていた。

しかし、いざフタをあけてみると男子は3対2、女子は5対0で、スコアのうえでも内容的にも韓国の圧勝に終わった。

◆男子

朴	2	15—7	15—12	0	大島	
金					大堀	
孫	2	18—17	15—4	0	山本	
兪					馬杉	
朴	2	15—9	18—15	0	井上	
金	1	15—6	7—15	2	山本	
			14—18			

◆女子

李(敬)	2	15—13	15—8	0	高峯	
金					陣内	
李(明)	2	15—3	15—2	0	野上	
柳					山内	
金	2	11—4	11—3	0	高峯	
柳					野上	
李(明)	2	11—0	11—4	0	陣内	
		11—5	11—0			
李	0	13—15	15—17	2	大島	

⊙朴・金×大島・大堀

韓国の朴は1年生ながらチャンピオン。その朴の好リードと巧みなレシーブで日本のミスを誘い1ゲーム楽勝。

第2ゲームにはいると、大島・大堀は必死のばん回をはかり、11オール、12オールと食い下がった。

しかし、攻守ともに上回る韓国ペアは3ポイント連取し、ストレート勝ちを収めた。

⊙孫・兪×山本・馬杉

韓国2番手と日本チャンピオンの好試合。

第1ゲーム、山本・馬杉はよく攻めて13—11とリードしたが、孫・兪はよくねばり、13オールのセッティングとなった。2—0と日本ペアがまず主導権を握ると、韓国ペアは4—3と巻き返す。山本の思い切りのよいスマッシュで4オールに追いついた日本だが、ここで韓国にはラッキーなポイントがはいり大接戦は孫・兪が先取。

するとどうしたことか、山本・馬杉は意気消沈し、コンビネーションも乱れてミスを多発、0—8とリードを許してしまった。なんとしても追いつくという気迫にも欠け、結局15—4の大差で韓国がダブルスに連勝した。

第1ゲーム最後の1ポイントがこの試合のすべてであった。

⊙李・金×高峯・陣内

両国チャンピオン同士の対戦となり好ゲームが期待された。

出足から李・金組はつねに1ポイントずつリードを保ち、日本ペアを並ばせない。この差が最後までひびき、惜しいところで第1ゲーム、高峯・陣内は失った。

第2ゲームにはいると、緊張の糸が切れたかのように日本ペアは精彩を失い、個人プレーのミスがつづいた。

チャンスボールを叩いてもミスをくり返し、レシーブも雑になり、第1ゲームのがんばりをフイにした。

⊙李・柳×野上・山内

日本第2位の野上・山内組は終始あせりと消極さが交錯し、李・柳組に大きくゆさぶられ、自分たちのペースをつかむことができず、わずか3本、2本を得るにとどまった。

⊙以上が主な試合の内容であるが、韓国チーム男子チームのチャンピオンである朴はまだ1年生ながら、日本のインターハイ・チャンピオン井上を2—0のストレートで降した。

従来の韓国選手はパワーを主体とするプレーだったが、朴はテクニックを主体とするプレーであり、攻撃面、防衛面ともに素晴しいものを持っている。

また精神的にも強く、巧みな試合運びなど、韓国の最も期待する〝星〟である。こういった将来性のあるプレーヤーの出現は、日本選手にとっても学ぶ点

が多いと思われる。

一方女子チームの主力選手である金、柳、李(明)もまだ2年生であり、日本のトップグループの高峯、陣内を4点以下に抑えつけるシングルスは、とうていわが国を寄せつけるものではない。

〔韓国チームの強さの秘密〕

男女とも日本を大きくリードした感のする韓国高校生だが、その秘密をさぐると、どうやら〝陸鳥球〟にあるようだ。

韓国は日本と違って水鳥球が少なく、ほとんどが陸鳥球を使用している。陸鳥球は水鳥球と比べると飛ばないために、選手は全身を使って力まかせに打つ必要がある。このことにより、中学生時代からパワーをつけることになり、アジアでは最も強い肩を持つといわれるほどになっているのである。

そして高校に進んで、しだい技術をも身につけてくるわけで、男女ともにすぐれたプレーヤーへの基礎固めができ上がるのである。

このパワー、体力を備えてからテクニックを覚えるという方法は、わが国の若手層にとって大いに学ぶべきだと思うが、どうであろうか。

〔韓国チームの悩み〕

高校までは抜群の力を持ちながら、大学生、社会人となるとあまり育たないという悩みがある。

これは、男子については兵役による二年間のブランクがなんといっても大きな問題である。

女子に関しては、ワールドカップなどの状況からもわかるように、かなりの力をつけてはいる。しかし、水鳥球と陸鳥球の違いが、高校生よりハイテクニックを要求される国際試合の場合には重くのしかかってくるようである。

このギャップをうめるために、韓国内の試合において、徐々に水鳥球を採用し、海外との交流を活発にする方向にある。これによって、持ち前のパワーと精神力を軸に、テクニックをプラスして、国際的にも通用する選手を養成したいと、韓国協会専務理事の車氏は語っている。

今後が大いに楽しみであると同時に、日本にとっては大きな脅威となってこよう。

なお同時に行われた栃木県選抜チームとの試合結果は次のとおりだった。

◆男子

孫	2	15—9	15—2	0
兪				鈴木
徐	2	15—7	15—4	0
李				加藤
朴	2	15—6	15—1	0
				大島
金	2	15—8	15—0	0
				大塚
徐	2	9—15	15—6	1
			15—9	大堀

◆女子

李(敏)	2	15—3	15—3	0
金				有川
床	2	15—2	15—1	0
李(美)				高橋
柳	2	11—1	11—3	0
				平間
李(敏)	2	11—1	11—1	0
				猪瀬
李(明)	2	11—2	11—2	0
				高橋

韓国選手団

団長：車熙元（大韓バドミントン協会専務理事）　主務：白昇基（競技委員），金栄俊（全州農林高教師）　男子コーチ：李徹薫（忠州工高教師）　女子コーチ：南貞美（聖旨女高教師）

男子選手：李徳茂（忠州工高3年）
兪炳煥（忠州工高3年）
孫文培（忠州工高3年）
徐成珉（忠州工高2年）
朴柱奉（全州農林高1年）
金昶局（光州第一高3年）

女子選手：李明善（聖旨女高2年）
金練子（聖旨女高2年）
柳尚希（聖旨女高2年）
李敬淑（聖旨女高3年）
床敬子（忠州女高3年）
李美淑（第一女高3年）

日本選手団

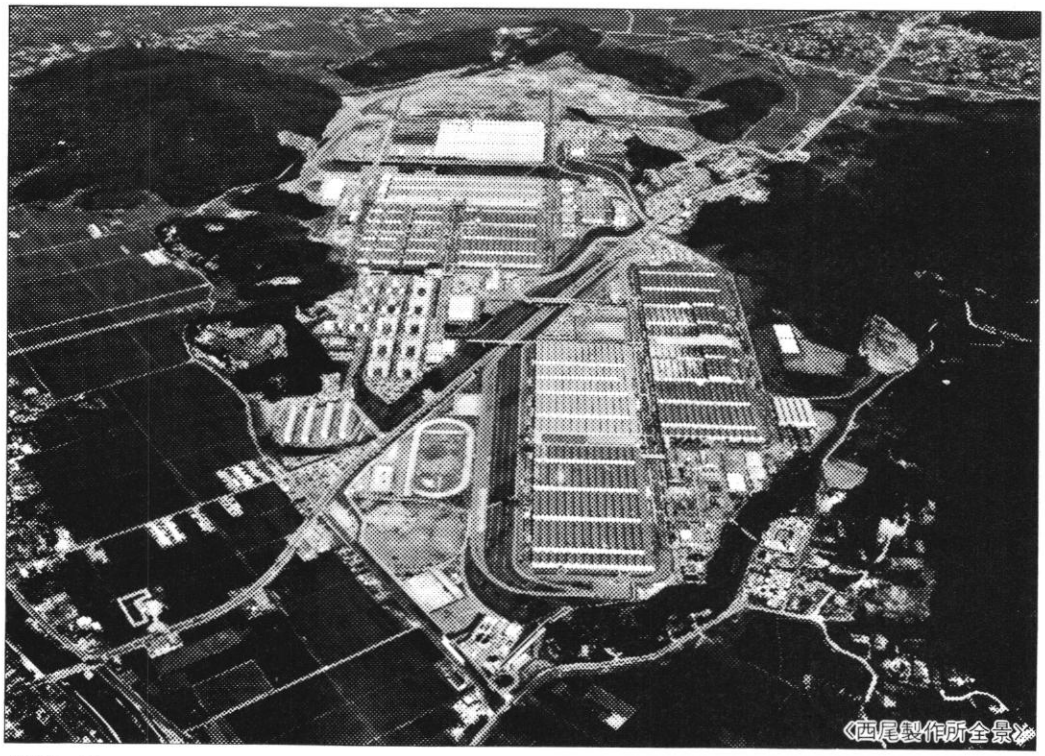
代表：遠井稔男（日本バドミントン協会常務理事）　男子監督：藤上良信（比叡山高教師）　女子監督：工藤勇参（熊本中央女子高教師）　男子コーチ：別井晃（今市高教師）　女子コーチ：佐藤秀夫（新潟青陵高教師）

日本選抜男子選手：井上哲章（熊本商科大付属高3年）
山本裕幸（比叡山高3年）
馬杉武司（比叡山高3年）
大島正志（今市高3年）
大堀　円（今市高3年）
竹端英夫（比叡山高3年）

日本選抜女子選手：高峯和子（熊本中央女子高3年）
陣内貴美子（熊本中央女子高2年）
井村由美（熊本中央女子高2年）
高峯尚子（熊本中央女子高1年）
野上満子（新潟青陵高3年）
山内美子（新潟青陵高2年）

自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!


〈西尾製作所全景〉

《営業品目》

- ●スターター
- ●オルタネーター
- ●ダイナモ
- ●レギュレーター
- ●イグニッションコイル
- ●ディストリビューター
- ●マグネトー
- ●ホーン
- ●ワイパー
- ●ウインドウォッシャー
- ●各種電子制御装置
- ●排気ガス浄化装置
- ●カーエアコン
- ●カークーラー
- ●カーヒーター
- ●燃料噴射ポンプ
- ●各種メーター
- ●ラジエーター
- ●スパークプラグ
- ●フィルター

日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　（〒448）　TEL 刈谷(0566)22－3311

★第19回全日本教職員バドミントン選手権大会★



教鞭をラケットに代えて先生方の大熱戦

8月8日→12日★金沢市

地元石川県みごとに錦

教職員の日本一を決める第19回全日本教職員バドミントン選手権大会は、8月8日から5日間の日程で、金沢市の石川県体育館と金沢大学体育館を会場に、30都道府県から394人が参加して開かれた。

▼一般男子団体戦

▽準々決勝

石川 3—0 三重
和歌山 3—0 北海道
宮城 3—2 大阪
群馬 3—0 埼玉

▽準決勝

石川 3（S1—0, D2—0）0 和歌山
群馬 3（S2—0, D1—1）1 宮城

▽決勝

石川 3（S1—0, D2—0）0 群馬

長谷川・弁田 2（15—5, 15—2, 14—17）1 鏑木・今井
小中・水内 2（15—3, 15—4）0 桐生・岩崎
長谷川・弁田 2（17—15, 13—18, 15—7）1 今井・栗原

⊙一般男子団体は、2年連続5度目の優勝をめざす石川が順調に勝ち進んだ。長谷川、弁田の二枚看板に、新人水内を加え、層の厚さではやはり他県に抜きん出ていた。

ベスト4には石川の他に、宮城、和歌山、群馬が進出したが、ベスト8で目立ったところでは、三重の健闘が光る。新人浅沼を単複に起用し、ベテラン西城、平田ががんばり、よくベスト8へ入った。

宮城も沼沢の加入を得て、千葉、木戸もはつらつとプレーし、接戦の末、大阪を降しての準決勝進出は立派。

和歌山も山本、米山を中心にベスト4までは進んだが石川のカベに完敗した。

決勝の石川×群馬は、予想外のストレートで勝負がついた。長谷川・弁田は今井・栗原の羽根打ちサービスに悩まされ、1、2ゲームともにセッティングにもつれこんだ。

しかし、第3ゲームはやや疲れのみえた群馬ペアに対し、しつようにコート奥を攻め、打っては弁田の剛と、長谷川の巧み

な柔がミックスされ、突き放した。

第2ダブルスも、小中・水内の早大OBコンビが快調に、桐生・岩崎の強打を封じるのに成功した。

シングルスは、ダブルスでファイナルゲームを戦った長谷川に対し、シングルス一本に絞った鏑木が挑戦。第1ゲームはセッティング（14オール）の末、先取したが、鏑木のスタミナはここでエンスト。2、3ゲームは急坂をころげ落ちるように完敗し、石川は栄冠を手にした。

大嶌・金田がんばり栃木優勝

▼女子団体戦

▽準々決勝

千葉 3—0 東京
栃木 3—0 滋賀
大阪 3—2 北海道
石川 3—0 埼玉

▽準決勝

栃木 3（S2—0, D1—1）1 千葉
石川 3（S1—1, D2—0）1 大阪

▽決勝

栃木 3（S2—1, D1—1, 1—1）2 石川
水沼 0（4—15, 4—15）2 成瀬
上野
大嶌 2（11—8, 11—3）0 丸岡
金田 2（15—5, 15—9）0 今部
水沼 0（2—11, 4—11, 11—2）2 宮野

⊙一般女子団体は、村田を欠く東京が2回戦で敗れ、4連覇を逸し、栃木と地元石川の決勝となった。

栃木は今年度の〝栃の葉国体〟のメンバー大嶌が単複に健闘、金田とともに初優勝へチームを導いた。

石川も宮野を軸に健闘したが、シングルスにもう一本の確実さがなく準優勝に甘んじた。

金田 2（11—8, 11—1）0 成瀬

熊本成壮年で一矢

▽準々決勝

富山 2—1 石川C
熊本A 2—0 長崎
石川A 2—0 福岡
大阪 2—1 滋賀

▽準決勝

熊本 2（S0—0, D2—0）0 富山
石川 2（S0—0, D2—0）0 大阪

▽決勝

熊本 2（S0—0, D2—0）0 石川
工藤
稲津 2（18—13, 15—1）0 原
和田
南
西田 2（15—8, 15—5）0 北方
江尻

⊙成壮年団体は、地元石川が非常な執念をみせ、決勝は激しい闘いとなった。

昨年一般ダブルスで優勝の工藤・稲津組に対し、同30歳以上ダブルスで2位の原・和田組が出足から圧倒し、第1ゲームは大きくリードした。

工藤・稲津はたたみかけるような攻撃にたじたじとなりながらも、しだいに体勢を立て直し、ようやく13オールに追いついた。

このセッティングに持ち込まれた時点で、石川ペアは精魂つき果て、第2ゲームは1ポイントをあげたにとどまった。

いずれにしてもシングルスに工藤を配している熊本の勝利は固かったが、石川の健闘は決勝の内容を濃いものとした。

巧者・長谷川逆転勝ち

▼一般男子シングルス

▽準々決勝

長谷川（石川）2（15—8, 15—4）0 阿部（埼玉）
仲尾（大阪）2（15—7, 15—10）0 小中（石川）
西村（富山）2（18—17, 15—1）0 工藤（栃木）
舛田（石川）2（15—7, 15—10）0 池田（神奈川）

▽準決勝

長谷川 2（15—3, 15—2）0 仲尾
舛田 2（15—9, 18—15）0 西村

▽決勝

長谷川 2（12—15, 15—1, 15—2）0 舛田

仲尾は羽根打サービスを武器に、強打の連発で高岡（福井）に快勝しての進出。

準決勝での舛田×西村戦は第2ゲームもつれたが、〝イノシシ〟舛田が押し切った。

決勝は地元同士の対決となったが、第1ゲームは舛田が積極的に攻撃をしかけ、長谷川にかわすいとまを与えずに先取。

しかし、第2ゲームにはいると、舛田の動きが急に遅くなり、長谷川の巧みなレシーブにコートを前後左右にゆさぶられた。

とくにネット前からフェイント気味に奥へ押っつけるシャトルと、クロスのネットが効果的で、舛田の速攻を完全に封じた。

⊙ベスト8のうち長谷川、舛田、池田は順当なところだったが、阿部は工藤（熊本）を降しての8入りだけにうれしそう。また、

大嶌、華麗に女王となる

▼一般女子シングルス

▽準々決勝

大嶌（栃木）2 11—1 11—3 0 前川（大阪）

宮野（石川）2 11—4 11—0 0 平松（埼玉）

鹿野（宮城）2 9—11 11—1 11—2 1 金田（栃木）

平野（新潟）2 10—12 11—4 11—5 1 北村（大阪）

▽準決勝

大嶌2 11—6 11—2 0 宮野

鹿野2 12—9 11—7 0 平野

▽決勝

大嶌2 11—1 11—0 0 鹿野

⊙大嶌、宮野、鹿野といった若手がやはり強かったが、その中でも大嶌が一枚上手のプレーを展開した。

長身からの切れの良いスマッシュ、ドロップが面白いように決まり、レシーブ力も群を抜いていた。

地元栃木で今年度の国体が開かれるということで練習量も十分であることがうかがわれた。

強打猛攻で神戸・高岡初

▼一般男子ダブルス

▽準々決勝

藤上 西村2 15—10 15—12 0 工藤 稲津（滋賀）（熊本）

長谷川 舛田2 15—4 11—15 15—8 1 鏑木 秋庭（石川）（群馬）

今井 栗原2 15—6 15—6 0 関 森（群馬）（東京）

神戸 高岡2 15—6 15—2 0 佐藤 斎藤（福井）（青森）

▽準決勝

藤上 西村2 15—12 8—15 15—7 1 長谷川 舛田

神戸 高岡2 15—12 15—2 0 今井 栗原

▽決勝

神戸 高岡2 15—4 11—15 15—9 1 藤上 西村

⊙昨年の覇者、工藤・稲津組は今大会ではやや迫力に欠け、ミスも多く準決勝進出はならなかった。実力では断然と思われた長谷川・舛田組は鏑木・秋庭組にも苦戦をしいられ、とくに秋庭のサービスに苦しめられ、フアイナルゲームを経てベスト4へ進出した。

藤上・西村組は、藤上が粘りつよいプレーをみせ、西村の若さあふれる攻撃を引き出した。このコンビの良さで、実力的には上回る長谷川・舛田組を倒した。一方の準決勝は、今井・栗原組が、得意の羽根打ちサービスの不調で、一方的な内容となった。

神戸・高岡組は、攻撃時には非常に素晴しいものをみせるが、守勢に回った場合のモロさが気になるペアだった。しかし、決勝では崩れかけてもすぐに立て直す精神的なゆとりがみられ、粘る藤上・西村ペアを力でねじふせ、初優勝をとげた。



最近は敗者審判が慣習となっているが、今大会はすべて地元石川県関係者が審判を引き受けた。いうまでもなく選手には大好評。試合に負けたあと、汗をぬぐう間もなく次の審判をするというのは、イヤなものなのです。右の写真は、ラインズマンを集めて打合せをする審判担当者。

ダークホース豊田・本吉制す

▼一般女子ダブルス

▽準々決勝

大嶌 金田2（栃木）
15—13 18—15
神前 滝0（滋賀）

本吉 豊田2
15—2
天田 堀川0（埼玉）

宮野 成瀬2（石川）
15—3 15—1
水沼 上野0（栃木）

北村 前川2（大阪）
15—8 15—9
八森 中島0（北海道）

▽準決勝

本吉 豊田2
15—11 15—10
大嶌 金田0

宮野 成瀬2
15—9 15—10
北村 前川0

▽決勝

本吉 豊田2
18—16 15—8 15—6
宮野 成瀬1

⊙シングルス同様、大嶌、宮野、金田といったメンバーに加え、本吉・豊田組が上位に進んできたが、優勝はそのペアがさらった。地元の宮野・成瀬組はよくラリーをつなぎ勝利への手がかりもつかんだが、第1ゲームをセッティングの末落としたのが痛く、惜しくも2位に甘んじた。

30代は平松、原・和田

▼30歳以上男子シングルス

▽準々決勝

森（和歌山）2
15—2 15—8
香島（長崎）0

原（石川）2
15—2 15—0
藤上（滋賀）0

平松（愛知）2
15—6 15—2
中島（富山）0

和田（石川）2
15—4 15—8
野見山（福岡）0

▽準決勝

原 2
15—9 15—4
森 0

平松 2
15—6 15—12 15—10
和田 1

▽決勝

平松 2
15—11 15—12
原 0

▼30歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

原
和田2（石川）
15—5 15—8
香島 浜司0（長崎）

平松 岩2（愛知）
15—3 15—4
大世古 南0（三重）

藤田 遠藤2（千葉）
3—15 15—8 15—10
正木 中島1（富山）

藤上 田中2（滋賀）
15—8 15—7
高来 松本0（石川）

▽準決勝

原 和田2
15—10 15—11
平松 岩0

藤上 田中2
15—7 15—5
藤田 遠藤0

▽決勝

原 和田2
15—5 15—2
藤上 田中0

⊙30歳以上といっても、原、和田、平松、藤上（長兄）ら一般の部でも十分に戦えるメンバーの争いとなり、見ごたえのあるゲームが多かった。

シングルスでは平松が、独特のプレーぶりで、次々と難敵を降し、準決勝で和田、決勝で原の地元石川勢を連破、みごとに初優勝をとげた。

ベテラン原も、2位とはいえ堅実なプレーで健在ぶりを披露した。

ダブルスでも同じような顔合せとなったが、原と和田のコンビは、断然のものがあり、まったく危げなく優勝をさらった。

混合複は仲尾・北村コンビ

▼30歳以上女子シングルス

▽準決勝

国門（滋賀）2
12—10 11—8
江尻 0（石川）

▽決勝

国門 キケン 安井（富山）
15—9
山田
15—8
枝畑2
寺田0（石川）

▼30歳以上女子ダブルス

▽決勝

江尻
15—9 15—8
山田 寺田0（石川）
枝畑2

▼40歳以上男子シングルス

▽準々決勝

佐々木（北海道）2
15—5 15—2
田中 0（千葉）

元田（熊本）2
15—4 15—2
前田 0（東京）

田中（熊本）2
13—15 17—14 15—8
鈴木 1（秋田）

西田（熊本）2
15—3 15—3
福島 0（熊本）

▽準決勝

佐々木 2
15—10 15—3
元田 0

西田 2
15—11 15—12 15—6
田中 1

▽決勝

西田 2
17—14 14—17 15—4
佐々木 1

▼40歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

南
西田2（熊本）
15—3 15—1
大西 村本0（石川）

北方
江尻2（石川）
15—10 15—13
石井 西村0（北海道）

宝来
北野2（大阪）
15—5 15—4
神山 東0（北海道）

高見
佐藤2（新潟）
17—14 18—14
雨宮 中田0（静岡）

▽準決勝

南
西田2
15—10 15—3
北方 江尻0

高見
佐藤2
6—15 17—16 15—4
宝来 北野1

▽決勝
南　2（15—2, 15—0）0　高見
西田　佐藤

▼50歳以上男子シングルス

▽準決勝
柳田（東京）2（15—2, 15—0）0　大島（福岡）
斎藤キケン（大阪）　鈴木（東京）

▽決勝
柳田　2（15—6, 15—0）0　斎藤

▼混合ダブルス

▽準決勝
仲尾　2（6—15, 15—9, 15—10）1　神山（群馬）
北村（大阪）
小中　2（15—7, 10—15, 15—6）1　山本（東京）
宮野（石川）　森

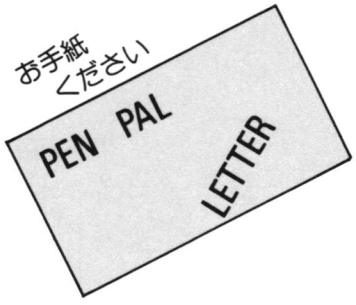
▽決勝
仲尾　2（15—5, 15—11）0　小中
北村　宮野



読者と編集者

この欄への投稿を募集しています。採用の方には、記念品を贈呈!!

ペンフレンド募集!



東京都私立のバドミントン部の方、男女を問わず文通してください。私は高校1年生です。よろしくお願いします!

〒114北区滝野川1—5—9
小林慶子

中学2年以上でけっこう強いダブルスの学生男子の方、二人お手紙ください!

いろいろ教えてくれるやさしい方。

何かの大会で入賞している方。楽しく文通してください。

私たちはあまり強くないダブルス女子二人です。

1年生大会2位、ほかは3年生と混じってベスト8程度。

アホな二人組です。どうぞヨロシク!

〒280千葉市大宮台5—28—10
坂本技美子

*明暗くっきり

先日行なわれたインターハイでみごと高峯和子さんが三冠王に輝きました。

私も一学年上だということで試合会場で1年生からの高峯さんを見てきましたが、最近の成長には目をみはるものがあります。同県人としてとてもうれしく思います。

ところで、インターハイ県予選を後輩の応援がてら見に行きましたが、実力者のひしめきあう熊本県の予選大会1年生から3年生まで全く変わりなく競い合う場面があちらこちらのコートでみられ、早い段階から熱戦がくりひろげられているのを思い出されます。

特に準決勝の中学総体で活躍した森山対高峯の試合は、フルセットの末のセッティングというすばらしい白熱した試合でした。試合が終わった瞬間、跳び上がって喜ぶ高峯さんと、半歩差で負けて泣いていた森山さんが印象的でした。

熊本県　匿名希望

*ラケットがダメに

先日、日中大会を見たのですが、中国におけるバドミントンの普及はどのようになっているのでしょうか。

また、日本選手とくらべてプレー内容はどのように違っているのですか?

それから、徳島ではバドミントンは非常に低調で、大きな大会もありません。バドミントンの本当の姿を知ってもらうために、あまり盛んでない地域でもビッグイベントを開催してもらえないでしょうか。

マイナースポーツから脱するためにも大切なことだと思うのですが……。

*

一ヵ月ほど前、国産のトップクラスのラケットを購入したのですが、とくにぶつけたわけでもないのに、フレームにヒビがはいり、使えなくなりました。

日本のラケット技術は世界一だと思いますが、耐久性という点ではどうなのでしょうか。

徳島市　土井正臣

⊙中国の強さは対インドネシアの〝友好試合〟の結果を見てもおわかりのとおり、パワー、スピードともに日本を大きく上回っています。女子のダブルスにおいて、多少未熟な面が見られる程度で、他は圧倒的です。瞬発力、持久力ともに素晴しいものがあり、また精神的にも強靱です。

⊙ラケットの損傷については、お買上げになったお店を通じてメーカーに現品をそえて、損傷の時期、状況などを詳しく連絡してください。メーカーでは原因を調査したうえで、責任をもってご返事するとのことです。

〔編集部から〕

いよいよ来月号から連載開始

チャンピオンをめざせ

銭谷欽治

来月号から、いよいよ現役チャンピオン・銭谷欽治選手による「チャンピオンをめざせ」を連載いたします。

ご存知のように銭谷欽治さんは、昨年までオールジャパン4連勝、5回の優勝をはじめ、実業団、社会人のタイトルを総ナメにしている文字通り無敵のチャンピオン。



石川県大聖寺高校時代はインターハイ・シングルス準優勝、中央大学ではインカレを握って日本のトップ選手としての地位を築き、河崎ラケット工業(株)入社後はつねに日本を代表するシングルスプレーヤーとして活躍中です。

銭谷欽治さんは、銭谷稔さんご夫妻の三男として昭和28年3月12日に誕生、現在身長百七七センチ、体重六七キロ、27歳、まさにこれから円熟期を迎えんとするところです。

〝日本の銭谷〟から〝世界の銭谷〟へ脱皮しようとする現在の銭谷さんへスポットを当て、体験を通した〝生のアドバイス〟を皆さんへお届けいたします。

最近になって初めてラケットを握った方、これからより強くより上達を目指す方にとっては必見の読み物となることをお約束いたします。

「私は、現在の若手プレーヤーと比較すれば、一見遅すぎると思えるでしょうが、高校へ入学して初めてバドミントンというものを知りました。

連載を始める前に、それまでのスポーツの経験をごく簡単にお話ししましょう。

中学時代は野球オンリーでした。

これでもピッチャーをしていたんですが、何せ出ると負け、阪神の小林投手のようなわけにはいきません。変幻自在の投球を何度夢みたことか。

でも、この野球部での練習が現在の体力の基盤になっているのですから、まったく〝塞翁が馬〟とはこのことかも知れません。

毎日毎日、黙々と百五十球から二百球の投球練習、そして約4キロのランニングが日課でした。ちょっぴり苦しく、喜々として楽しかった日々です。

そして高校でバドミントン部へ入部する動機も、中学の野球部の先輩がバドミントン部だったからです。

今考えてみても、中学時代の野球は、私と切っても切り離せないものがあったのです。縁というものでしょうか。

それまで、バドミントンとは女の子の羽根つき、ぐらいにしか考えていませんでした。それが今日まで続いているのですから不思議なもの。

とにかく、それまではスポーツといえば野球。父と兄達が陸上の中距離の選手だったことから、いったんは陸上部に籍を置いたんですが、これは性に合わないと思いすぐにバドミントンに転向したわけです。

それ以後のことは、次号から本誌に連載させていただきます。

私がバドミントンに接して抱いた悩み、迷い、苦しみを通して、皆さんの上達の法にお役に立つものがあれば光栄です。」

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

リーサロッティの春

ヨーロッパ・チャンピオンになって半時間後、リーサロッティ・ブルーマは伏し目がちにプレスルームにやって来た。

スイスのように小さな、住みよい、そしていささか孤立した国からヨーロッパのバドミントン界で一躍その存在を示す選手が出ようとは誰も予測しないことだった。

シーズン初めの一週間ドイツで練習し、その後ドイツ選手権に出場しているが、特に印象に残る存在ではなかった。

このタイトルは、最後まで二本足で立っていることのできたままあのプレーヤーが引ったくったものだと、おきまりの悪口を言う者もいる。リーン・コーペンは背骨の故障でそのタイトルを手放し、No.2にシードされたカレン・ブリッジは足首を捻挫して文字どおり転落したのだった。

ブルーマの鋭いストロークは2回戦でオランダのビューセコムを12—11、7—11、12—11で降した。ビューセコムはプイと更衣室に跳び込み、くやしまぎれにドアを蹴った。

二度マッチ・ポイントをとりながら、若いひたむきなブルーマに敗れてしまった。地元の観衆やテレビを前に間違いない勝利の好機を逸し、22歳のスイスの体育科学生が決勝に歩を進めた。

二年前の同じヨーロッパ選手権でビューセコムはこのブルーマと対戦して勝っている。この時の3ゲームの接戦を思い起こせば、今回の敗戦は必ずしも不名誉とはいえないだろう。

また最近の世界選手権でのリーサロッティでの成績も不名誉とはいえまい。緒戦で敗れはしたが、リーン・コーペンをシングルスの王座から転落させたインドネシアのリー・イバナが相手だった。

ブルーマにも悩みがある。設備の十分とはいえないスイスでどうやって上達できたのか？体育の教師の道を断念してプレーに専念するつもりか？いろいろたずねられるだろう。

記者会見でおずおずと言葉少なに彼女の語ったのは、これまでどおりの静かな生活を続けたいということだった。しかし、

イバナの悩み

苦笑を浮かべながら、イバナは左足の小指を動かした。

「これが大問題なの」

骨に腫瘍があるらしく、イバナは激しい痛みに悩まされている。二年前のユーバー杯中に小指を痛めたものらしいが、その時は特に治療もせず、心配もしていなかった。

六月初め、中断していた集中訓練を再開した時、痛みが激しくなった。

医師に手術をした方がいいといわれた。

「ただし、プレーへの見通しはいいとはいえないがね」

イバナは現在一日おきに治療を受けているが、あまりはかばかしくない。時間が解決してくれるのを待つばかりだと、彼女はいっている。

若い、俊足のイバナの今後に期待しているインドネシア・バドミントン協会は大いに気をもんでいる。

（ピーター・オサリヴァン）

マスターズへの招待をはじめとして早速彼女のもとに届いている申し出がその気持を変えさせるかもしれない。

ブルーマは準決勝でめざましいフットワークのアクセルソンを11—8、4—11、9—12で降したが、3ゲーム目、2—6とリードされた時、勝運に導いたのは逆境に負けぬ彼女の攻めだった。決勝でも彼女はスウェーデンのNo.1、アネッテ・ボリエッソンを前に勝ち目のない負け犬だった。しかし、みごとなスタートを切った——たてつづけに6ポイントをとった——切れ味のするどいオーバーヘッド・ドロップ・ショット。11—4、11—6の圧勝だった。

（リチャード・イートン、サンデー・タイムズ）



足のケガが心配される
イバナ・リー・イン・ホー

IBF年次総会から

5月28日、IBF年次総会がジャカルタで開かれた。

ステラン・モーリン会長から総会出席の途中訪問したタイ、香港、韓国の最近の動きが次のように報告された。

タイはIBFへの再加入を申請したが、WBFに移った機関とは別の機関からの申請である。韓国、香港ともに復帰の意向を示している。また最近接触のあった中国でも、統合への希望が高まっている。



▲ワンポイントはもっと小さくなる?

財務報告の中で深刻な問題は「ワールド・バドミントン」誌のコストであり、一九八〇年度の赤字は四千ポンドと見込まれる。

規則14条の追加に関するオーストラリア提案は、スピードに変化をつけるためにシャトルの正当な飛行を妨げたプレーヤーの処罰を求めるものだった。表現を明確にすることと、コート上の「紳士的行動」全般についての修正を含めることとし、理事会にかけることになった。

トーナメント規則に新しい条項の追加が理事会から提案された。

第一は、コート上およびアンパイア席を除く周辺での広告の禁止。

第二は、登録ずみのチーム・カラーを除き、着衣は主として白とすること。

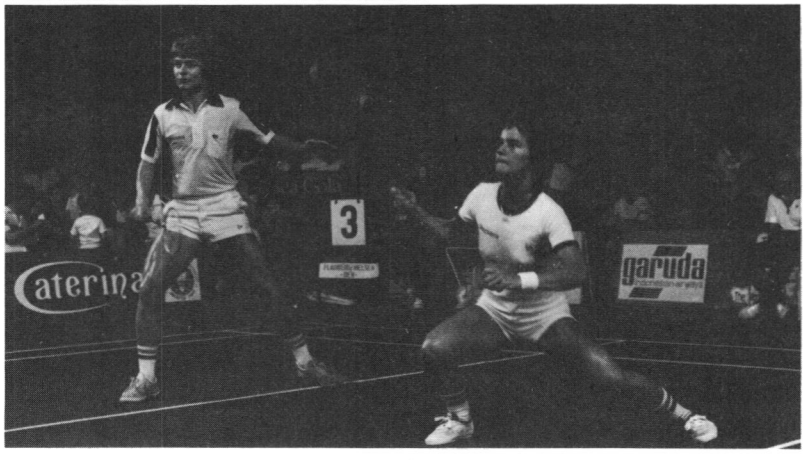
第三は、着衣上の広告。プレーヤーの衣類上の広告は最大20ミリ平方とすること。広告はトラック・スーツ（ウォームアップ・ウェア）に許され、試合開始までコート上での着用はかまわない。

この提案は理事会が整理し表現を明確にすることで承認された。



◀チームカラー以外は使えない?

▼コートサイド，スタンドに所せましとならぶ広告も縮小へ?



ステラン・モーリンは会長に再選されたが、今期かぎりで退任する旨述べた。

政治的状況に関する会長の先の報告によると、台湾がその名称変更に同意すれば、台湾問題は解消に近づくとの見通しである。南アフリカの問題は、なお困難ではあるが、一国一票という、常にくり返される難問について検討中である、新しい妥当な提案が出されると思われる。

ステラン氏はIBFとWBFの問題についても楽観的であり、同氏の在任中に、統合への接渉が成功することを期待している。

（いずれも〝バドミントン〟8月号の記事から要約）

さらにJ. Hashman夫人の著作Starting Badmintonは、さまざまな練習法を紹介した項目の中で“Associated half-courts：Y and P try to manoeuvre one another around using the front halves of their courts. The object is to develope deception and accuracy when making and returning half-court shots in any direction.”（ハーフコートを使っての総合練習：YとPはお互いのコートの前半分だけを使って打ち合いをする。この練習の目的は、あらゆるコースにハーフコート・ショットをやりとりし、かけひきと打球の確実さを身につけることである）とあって①各自のコート領域のさらに半分も「ハーフコート」という。②ハーフコート・ショットという呼び名があることがわかる。

この場合のハーフコート・ショットは、各自のコート領域のちょうど真ん中ぐらいの深さをねらって打ち込むものを意味し、とくにダブルスでは2人の間、すなわち、センター・サービスラインに打ち込むものを指すことが多い。

handle　ハンドル。かつて日本語では把手（とって）と書いた。ラケット、スティック、バットなどの握りの部分のことだが、言葉の定義には必ずしもグリップとイコールではないようだ。バドミントンのラケットの説明図などでは、シャフトが差し込まれている部分すべてが「ハンドル」であり、グリップは、そのうちレザーなどが巻かれた、直接に「握り部分」に関係するところを指す。

語源的には、もちろんhand（手）から派生したもので、この言葉を動詞として使うと「扱う、操作する」意味となる。なお、日本語で「ハンドル」という片カナで通用している、自動車や船の舵（操行舵、舵輪ともいう）は、英語では steering wheel（スティアリング・ホイール）直訳すれば「舵取りの車輪」という。

high backhand　ハイ・バックハンド。オーバーヘッド（頭上）の球をバックハンドで処理する場合の打法。しかし、この語がポピュラーな英語であるかどうかは、ちょっと疑問で、一般の入門書、指導書では、ふつうOverhead backhand（オーバーヘッド・バックハンド）ですませている。

このストロークでは、理論上はクリア、スマッシュ、ドロップ、ドライブとなんでも打ち分けが可能である。しかし、実態は上半身の回し戻しと、空に向かって刀を抜き放つようなフォワード・スイング→インパクト→フォロースルーの同調がきわめてむずかしく、ほとんどはひじと手首に頼ることになって有効打が生れにくい。このため中級レベルまでは、ラウンド・ザ・ヘッド（その項参照のこと）で代用するのが賢明といわれる。

high clear　ハイ・クリア。すでに説明したクリアの最も典型的なショット。ふつうはフォアハンドのオーバーヘッドからのものを指す。可能な限り高く打ち上げ、しかも、シャトルが深く、相手のバックバウンダリ・ライン上に、垂直落下するようなものがよい。

ところで、このhigh clearという語も、英語よりはむしろ日本語として有名なようで、英語では、ただクリアといえば、それはハイ・クリアのことである。筆者の手元にある3冊の英文指導書、およびスポーツ辞典類の中で、ハイクリアという文字はたった一カ所でお目にかかったにすぎない。

☞ clear（クリア）、drive clear（ドライブ・クリア）

high serve　ハイ・サーブ。high service（ハイ・サービス）ともいう。日本語では丁寧にlong high service（ロング・ハイ・サービス）ということが多いが、英語では実際上はlongは省略されてしまっている。しかし、long serviceという表現がないわけではなく、たとえば、既出Burris, Olsonの著書では、次のような記述がある。“The long serve is basic to singles play and is identical in pattern to the underhand clear.”（ロング・サーブはシングルスで基本的に使われるもので、打法やフライトの型はアンダーハンドからのクリアと同じものである）。

なお、ハイ・サーブの反意語はロー・サーブまたはショート・サーブ（low serve, short serve）。

hit　ヒット。ストライク（strike）の同義語で、対象物に接触してそれになんらかの衝撃を与える、というのが原義。打球競技では、ラケット、スティック、バット、手などでシャトルやボールを打つこと。ラケットでシャトル、ボールを打つという表現には、ほかにto meet（シャトルにラケットが“出合う”）、to impact（ばちんと当たる、衝撃を与える）、to contact（接触する）などもある。

ヒットは名詞として使い「命中、的中」の意味がある。芝居、映画、流行歌などがヒットする、という表現はここから出たもので“大当り”の意味。“An idea hit me.”といったら「ある考えが浮かんだ」ということになる。

（Hの項つづく）

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Hの項

hairpin　ヘアピン。ネットの至近距離で放たれる、バドミントン独特のショット。より丁寧にはヘアピン・ショット hairpin shotと呼ぶ。ネットすれすれに、ゆるく小さなフライトが落ちて来た場合、ラケット打面をコート面に平行に保ち、シャトルを下から、お盆かお皿にでも乗せて軽く持ち上げでもするように押し返す。そのシャトルがネット上縁を再びすれすれに越し、越したとたん、ネット面すれすれに、相手側コートに、失速状態で落下させる。

そのためには、相手に打たれたシャトルが自分のコート領域に入ったら、できるだけ早く、つまり、ネット上縁からできるだけ下がらないうちに処理しなければならない。

このショットは、長くても2、30センチ程度の距離をシャトルがはい上がり、相手コートに落ち込めばそれで目的は達せられる。したがって、シャトルが必要以上にハネ上がるのを防ぐため、手首を可能な限り動かさないこと（グリップをきつく締めると、その目的が達せられる）、ひじを支点に、腕全体を軽く引き上げるようにするのがコツ。

しかし“軽打”であるからといって、腰をひいて手だけで打つ意識が先行すると、コントロールがきかなくなるので、体自体をネットへ接近させることが必要。そのためには、フォアハンド、バックハンドいずれの場合でも、右足を前に踏み出すのが効果的である。

ヘアピンは技術上の分類からいけばアンダーハンドのドロップ・ショットの極端に小さいもの、ということができ、コート上の戦略からはネット・ショット（ネット近くでやりとりされる打球、打法）の１種である。しかし、ヘアピン打法に準ずるショットで、シャトルを左右いずれかの対角線方向へ（つまり斜めに）スピードをつけて返す場合、これをクロスコート（cross-court）と呼び、ヘアピンとは区別して扱うことがある。

念のため、これまでに述べたことを、うまく説明している英文をひとつ、お目にかけよう。

“Such shots are generally taken underhand below the top of the net and require the absorption of some of the force from the bird. A perfect hairpin shot brushes the top of the net and tumbles down the other side.（Badminton; by B. J. Burris, A. L. Olson）

（この種の打球は、ふつうアンダーハンドで、ネット上縁より低いところで扱われ、球威を殺すことが必要である。ヘアピンショットは、完全ならば、シャトルがネット上縁をこすって相手コート側に転がり込む。）

ヘアピンは、コートを横から見た場合、ネットをはさむシャトルのフライト（飛行軌道）が、ちょうど女性が髪をとめるヘアピンに似ていることから命名された、といわれている。しかし、前記のように、このショットをヘアピンとして正しく説明している英米書は、それほど多いとはいえず、本欄でしばしば引き合いに出すThe Illustrbted Handbook of Sporting Termsなどには、説明がない。

参　ヘアピンにはもうひとつ、自動車レースのコースのヘアピン・カーブ（hairpin curve。180度に近いような急な、深いカーブ）という意味がある。

☞　netshot（ネットショット）

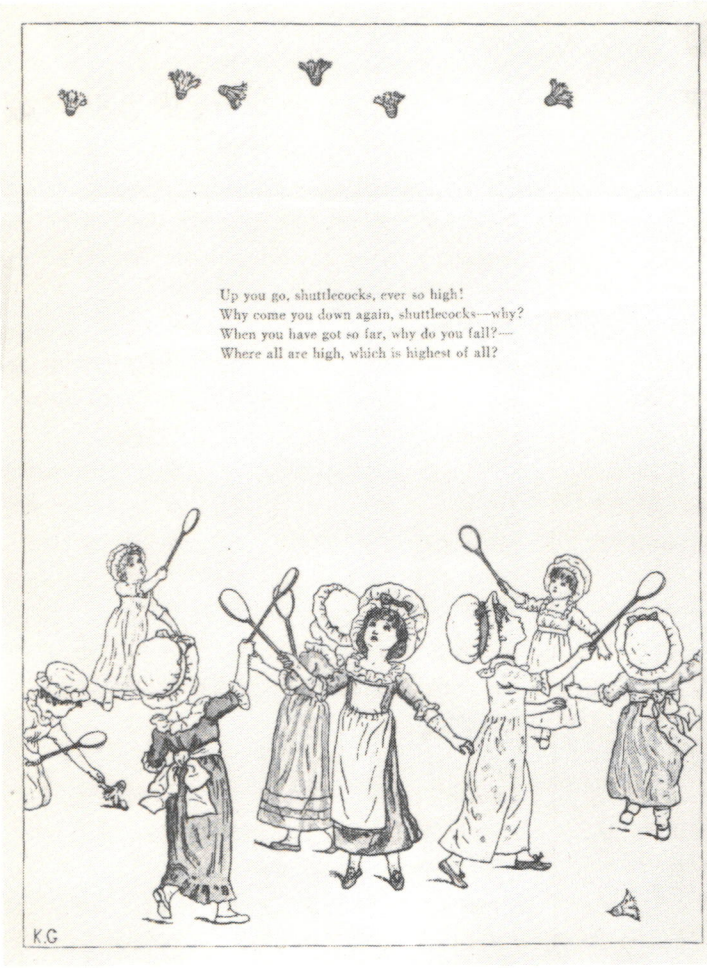
half court　ハーフ・コート。さまざまな意味に使われている。バドミントンやテニスの試合場であるコートを、ただだまって「コート」という場合、それはネットをはさんだコート領域全体を指すのがふつう。したがって、ハーフ・コート（半コート）といえば、ネットをはさみ、どちらか片一方（自分側のコートか、相手側のコートか）の部分ということになる。

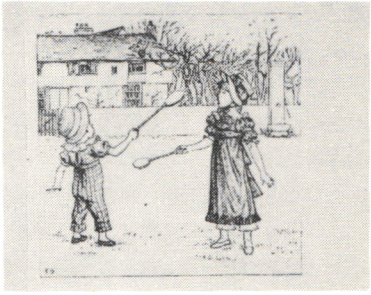
事実、日本バドミントン協会の「競技規則」ではコート見取図の付属的な説明（これは規則の条項ではない）として、ダブルス用コートの対角線距離が①全コートでは14.723m（コーナーからコーナー）②半コートでは9.061m（ポストからコーナー）またシングルス用コートについては、同じく対角線距離が①全コートで14.366m②半コートで8.469m——と述べている。ところが、このような記述は、この規則のオリジナル（原本）に相当する国際バドミントン連盟（ＩＢＦ）の英文規則書にはない。

一方、試みにWebster's Sports Dictionaryを見るとハーフコートは“A service court（as in badminton or tennis）.”（バドミントンやテニスのサービスコートのひとつ）と説明されている。

19世紀のバドミントン

「マザーグース」の挿絵で日本にもファンの多いケイト・グリーナウエイは、十九世紀末のイギリスの子供たちにはクリスマス・カードやカレンダーでもおなじみです。彼女の伝記をそえたその作品集「ケイト・グリーナウエイ・ブック」（ペンギン・ブック）の中から、ここにご紹介するのは、子供たちのお誕日の本やカードなどに描かれたもの。バドミントンはその頃から子供たちのお気に入りの遊びだったようです。（友枝康子）





編集室から

▼熊本県の皆さん、全国中学大会では大変お世話になりました。本号でご紹介した以外にも多くの写真があります。次号以降でスペースの都合がつけば、ぜひ掲載したいと思います。

▼栃木県の皆さん、日韓高校競技会では大変お世話になりました。韓国チームから学ぶべきことも多いようです。

▼〝羽根打ちサービス〟が禁止の方向に動いています。インターハイでも教職員大会でも、かなりの選手が使っていましたので、もし禁止になればその影響はかなり大きいでしょう。情報がはいりしだい誌上でお知らせいたします。

▼間もなく「栃の葉国体」が始まります。バドミントンは真岡市で開かれますが、各県とも熾烈なポイント争いをくりひろげることでしょう。近隣の方はぜひご観戦においでください。

▼次号は、社会人大会を中心にお届けします。クラブ紹介などふるって投稿をお寄せください。お待ちしています。

バドミントン界　The Badminton World

1980年9月号　©1980年　通巻第131号

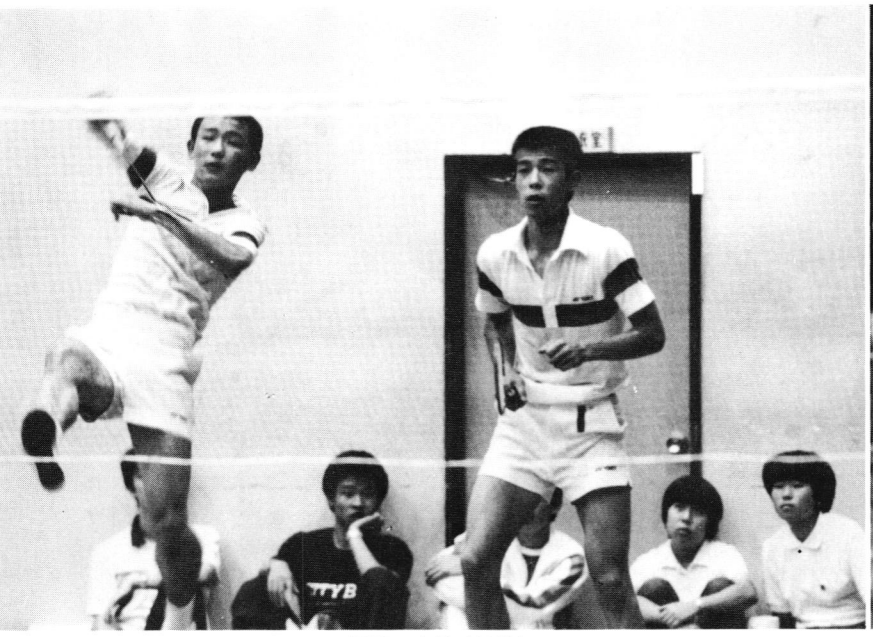
写真植字／サカキバラ写植
印刷・製本／根岸印刷

◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

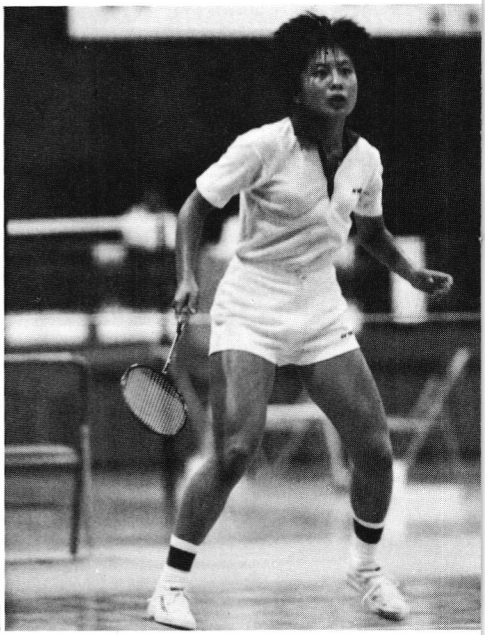
定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円（送料共）
振替＝東京8－10737

昭和55年9月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952

真夏の祭典★インターハイから　善通寺市において



松野・宮組（日川）



野本（土佐女）



田向（高岡女）
三田美（横浜立野）



羽田・村松組（金沢市工）
岡安（日大鶴ヶ丘）





真夏の祭典★インターハイから　善通寺市において



戸村・加藤（宇都宮南）
原田（山陽女）



川口・佐野組（川口女）
工藤監督（熊本中央女）



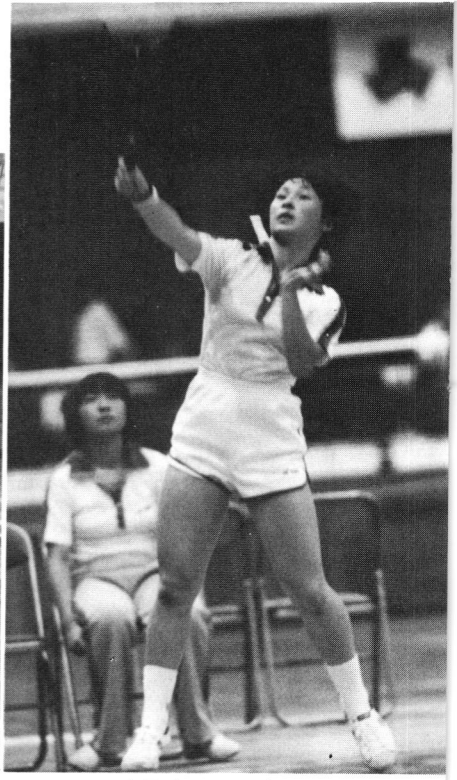


佐藤（秀）監督（新潟青陵）





松田・新木組（四条畷）



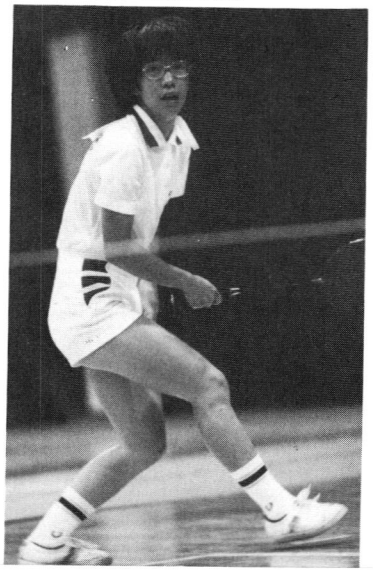
高橋（小山城南）

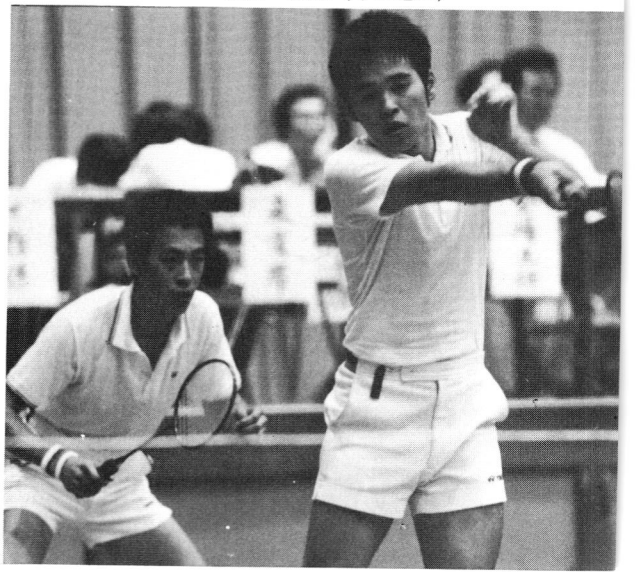


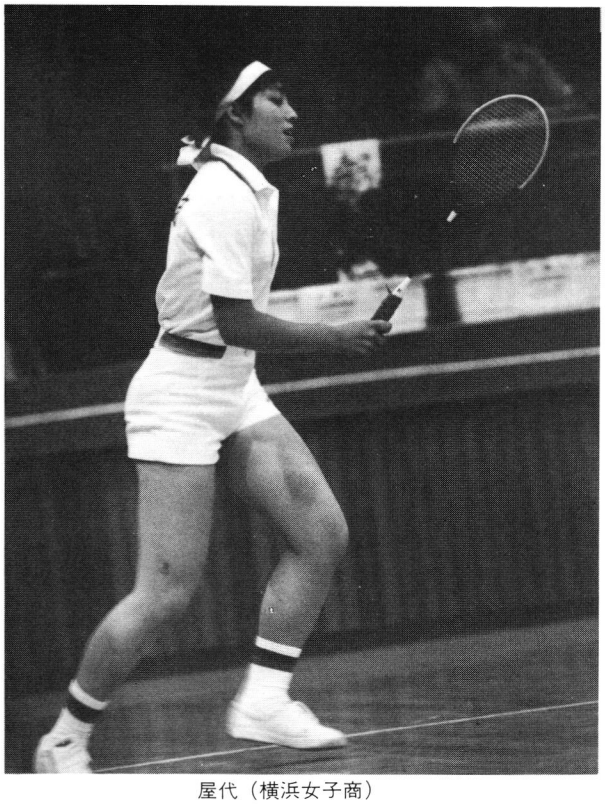
鈴木・遠藤（磐城女）
永井（高松中央）



野々村・矢部（土佐）
西野・藤本（不二越工）







屋代（横浜女子商）



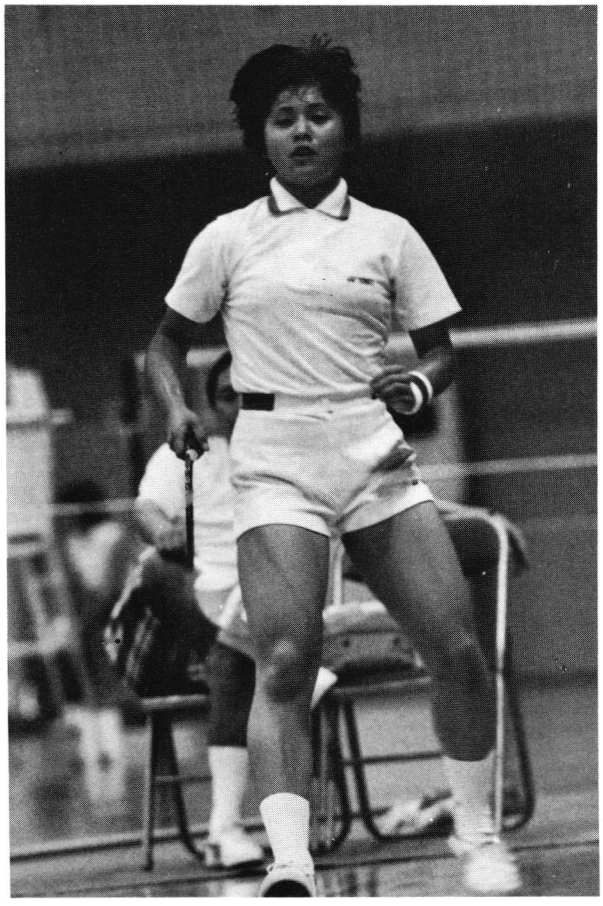
中村（一条）

真夏の祭典★インターハイ

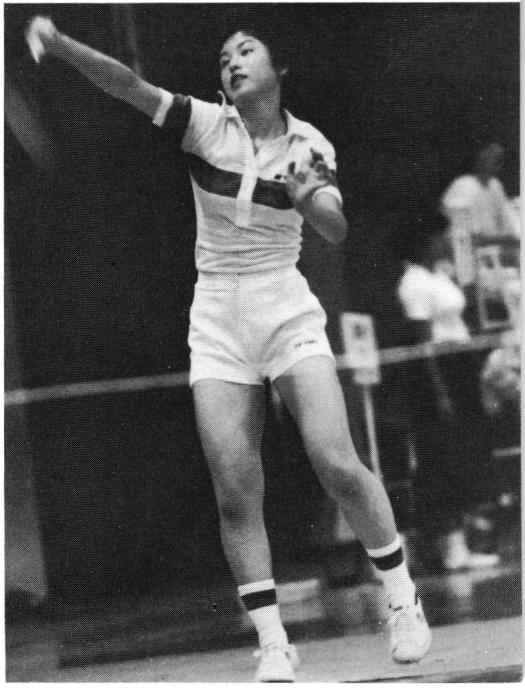


藤上監督（比叡山）

阿部（滝川西）



阿部（園田学園）





DÉFI

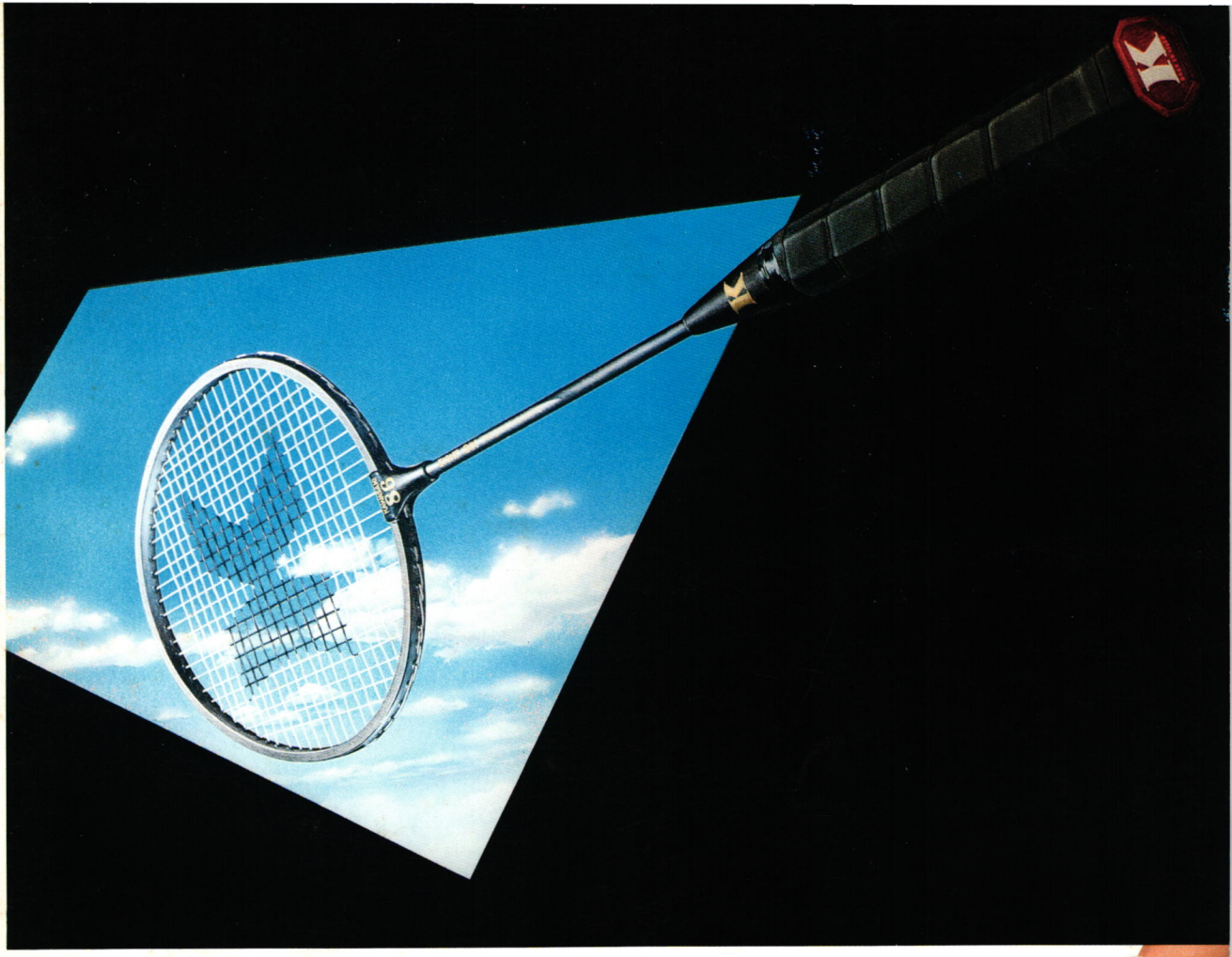
イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社





エイトシックス　B-86

グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)
フレーム価格 13,000円

この軽さを探がしていた。
ニューテクニックが生まれそうだ。

あるハイジャンパーは地球の引力に1cm多く逆らうために2万回も跳んだ。いつの場合でも、スポーツマンの流す汗ほど貴重なものはない。ときにシャトルがおよそ200km/hourを起すバドミントンの世界でも、多くの汗が流された。そして手に、美しいB-86。“スピード時代”への完璧な対応を目指して……。

軽さで群を抜き、剛さでまた群を抜く。オールグラファイトB-86。新しい時代の王道へ、いま。

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社